事項一二　北樺太派遣軍ノ撤退

三四九　一月十三日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

サガレン州派遣軍撤退ノ期限ニ関スル件

別　電　一月十三日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第一六号
サガレン州撤兵ニ関スル修正案

付　記一　利権契約締結期間ニ関スル海軍側回答案

二　サガレン州派遣軍撤去ニ関スル陸軍側細目要領案

第一五号　（至急極秘）

貴電第一六号中撤兵問題ニ関シ我方トシテハ条約ノ効力発生スル場合出来得ル限リ早ク派遣軍ノ撤退方ニ着手シ且可成速ニ全部ノ撤兵ヲ完了セントスルモノニシテ二月中旬迄ニ条約カ効力ヲ発生スル場合解氷期到来ノ時期及天候等ノ如何ニヨリ或ハ五月中旬ヨリモ早目ニ撤兵ヲ完了シ得ルヤモ計ラレサルモ亜港ニ於ケル海上船航期ハ例年四月中旬ヨリ開始セラレ派遣軍全部ノ輸送ヲ終了スルニハ約一ケ月ヲ見積リ置ク必要アル次第ナルヲ以テ彼我間ノ約束トシテハ五月十五日迄トナシ置キ度ク尤モ右期限ハ平年ノ例ニ依ル最少限度ナルヲ以テ不可抗力的事態ノ発生スル場合ニハ或ハ若干時日ノ異動ヲ来タスコトモアルヘク斯ノ如キ異動ハ事実問題トシテ其ノ際ニ考量スル様予メ先方ノ諒解ヲ求メ置カレタシ何レニスルモ先方申出ノ如ク撤兵完了期ヲ五月一日迄トナスコトハ事実不可能ノ次第篤ト説明セラレタシ

尚本件先方提出ノ案文ニハ「日本政府ニ於テ撤兵ヲ行フ」ナル文句アル処既電ノ如ク我国ニ於テハ軍ノ行動ハ統帥権ニ属スルヲ以テ右ノ如キ用字ハ之ヲ避クル必要アリ其ノ他用語ノ妥当ト正確ヲ期スル為本件条文ハ別電第一六号ノ通リ修正スルコトト致度ニ付右ニ依リ先方ト交渉取纏メラレ度シ

編註　本電ニハ「天候等不可抗力ノ関係ニ依リ撤兵期ハ若干延引スル場合ヲ顧慮シ予メ露国側ニ諒解セシメ置クヲ要ス」トノ付箋ガアル

（別　電）

一月十三日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第一六号
サガレン州撤兵ニ関スル修正案

第一六号（至急極秘）

Protocol A

Article 3. In view of climatic conditions in Northern Saghalien preventing the immediate homeward transportation of Japanese troops now stationed there, these troops shall be completely withdrawn from the said region by May 15, 1925.

Such withdrawal shall be commenced as soon as climatic conditions will permit, and any and all districts in Northern Saghalien so evacuated by Japanese troops shall immediately thereupon be restored in full sovereignty to the proper authorities of the Union of Soviet Socialist Republics.

The details pertaining to the transfer of administration and to the termination of the occupation shall be arranged at Alexandrovsk between the Commander of the Japanese Occupation Army and the representatives of the Union of Soviet Socialist Republics.

（欄外記入）

（付　記一）

利権契約締結期間ニ関スル海軍側回答案
（一月十三日軍需局員持参）

一、撤兵完了後一定期間ニ利権契約ヲ締結スルコトニ協定スルトシテモ実際問題トシテハ露国側現場調査完了スルニ非サレハ例ヘ撤兵完了シ且ツ日本側カ利権契約ニ対スル準備整ヒタリトモ先方ハ之ニ応スルコト能ハサルノミナラス現場ニ於ケル物件ノ引継キ及現場ノ立会検査ニ於テハ先方ニ対シ十分ナル諒解ヲ与ヘ置カサレハ利権会議ニ際シテモ充分ナル進捗ヲ遂ケ難カルヘシ殊ニ例之ハ二月中旬ニ効力発生スルトシテ直チニ撤兵着手ト同時ニ現場調査ニ着手スルトシテモ冬季雪上ニ於テノ野外作業ハ種々困難ヲ伴フカ為メ現場調査モ自然予定期間ヲ超過スル傾向アリ又仮令幸ヒニシテ撤兵完了期予定五月中旬迄ニ現場調査ヲ完了セシムルコトヲ得ルトシテモ露国側調

査員カ北樺太ヲ出発シテ莫斯科ニ到着スルニハ何レノ途ヲ採ルモ一ケ月以上ヲ要スヘキカ故ニ貴案ノ如ク利権契約締結期間ヲ撤兵完了後四ケ月トシテモ実際（正味利権契約ニ有効ナル期間）ハ三ケ月以下ニ縮少スル訳ナリ故ニ利権契約締結期間ハ正味四ケ月ヲ要スルト見込ミ先方ニ対シテハ撤兵完了後五ケ月トシテ提案シ且ツ現場調査ハ右撤兵完了迄ニ終了セシムル如ク取極メ置クヲ可ナリト認ム

二、従ツテ二項作業継続ニ関スル公文案モ一項ノ趣旨ヲ以テ訂正スルコトニ取計ハレ度

三、三項ハ貴案ノ通ニテ異存無之

四、四項議定書(b)第七条ニ関シテハ本省ニ於テモ特ニ重要視スル所ナルニ付キ貴案ノ趣旨ニテ強硬主張セラルルコトニ取計ハレ度

備考

外務別案「貴電第二〇号ニ関シ」云々ニ就キテハ大臣ノ裁決ヲ得タル後回答スヘキ旨欧米局ニ照会シタルニ東郷一課長ヨリノ電話ニテ「到底先方五〇％要求ヲ容レサルコト明白トナレル時ニハ改メテ閣議決定ヲ待ツ

必要アルヘク兎ニ角貴省ノ都合許ス限リ至急御回答ヲ得度」トノ話ナルニ付本文ニ対シテハ大臣御不在ニ付口答ニテ次官ノ御意見ヲ外務ニ伝フルコトトシ度

（欄外記入）

次官限リトシテハ本案ニ異存ナキ旨口頭回答アリタリ

（付　記二）

サガレン州派遣軍撤去ニ関スル陸軍側細目要領案

大正十四年一月（軍務局員山田少佐持参）

薩哈嗹州派遣軍撤去ニ関スル件

第一　要領

（欄外記入）

一、軍ノ撤去ハ我諸施設等ノ撤去及引継ニ伴ヒ北方ヨリ行ヒ気候等ノ関係之ヲ許スニ至レハ速ニ亜港ヨリ海路輸送ヲ開始シ五月十五日迄ニ之ヲ完了ス但シ露国官憲ノ到着遅延シ現地ニ於テ引継ヲ行ヒ難キ場合ハ一時所在露国人総代等ニ引継キ同官憲ニ対スル主権ノ引継ハ亜港ニ於テ行フコトアルヘシ

二、軍ハ撤兵ト同時ニ当該各地区ニ於ケル民政ヲ撤去スルモノトス其ノ時期ハ予メ軍司令官ニ於テ布告ス

軍ノ撤去セシ各地区ハ完全ナル主権ニ於テ露国官憲ニ還付セラルヘキモノトス

三、露国側ニ譲渡スヘキ物件ニ関シテハ成ルヘク我方ノ為有利ナル条件ヲ付ス

第二　撤兵ノ実施

一、民政ノ引継及占領終止ニ関スル細目ハ遅クモ二月二十日ヨリ亜港ニ於テ軍司令官ト露国代表者ノ間ニ打合ヲ為スモノトス但シ現地ノ引継ニ任スル露国官憲ハ軍撤兵ノ関係上左ノ如ク渡来スルコトヲ予メ露国側ニ希望ス

尼港ヨリ「オハ」ヘ三月一日以前

「ラザレフ」ヨリ「ポゴビー」ヘ三月九日以前

二、軍ノ未タ撤去セサル地区ト雖露国ノ民警ヲ入国セシムルコトヲ得但シ之カ為日本軍ノ撤兵前ニ在リテハ宿営力等ノ関係上多数民警ノ渡来ニ不便ナルコトヲ予メ露国側ニ通告ス

三、撤去ノ順序ハ概ネ軍需品ノ還送ヲ第一トシ次テ軍隊及民政諸機関ニ及フ

第三　物件ノ処理

一、兵器弾薬ハ一切還送スルモノトス

自衛用トシテ軍ヨリ民間ニ貸付ケアル兵器（其数僅少ナリ）ハ此際之ヲ回収ス

二、一般軍需品中薪炭、営繕材料、一部ノ糧秣等ハ邦人及露国側ニ売却シ又ハ譲渡ス

三、軽便鉄道ハ既設軌条等撤去シ得サルモノノ外成ルヘク之ヲ還送シ残置セサルヘカラサルモノハ之ヲ邦人及露国側ニ売却シ又ハ譲渡ス

四、電信

有線　架設セル裸線及将来使用シ得サル被覆線ハ露国側ニ譲渡ス但シ場合ニ依リ邦人経営者ニモ譲渡スルコトアルヘシ

将来使用シ得ル被覆線及通信機ハ之ヲ撤去還送ス

右処理ニ当リテハ軍ノ撤去行動間ニ於ケル通信ヲ顧慮シ最小限ノ主要ナル通信線ヲ存置シ軍撤去後ハ通信機ノミ撤去還送ス但シ軍撤去後東海岸方面ト亜港トノ通信等ニ供セシムル為一部ノ通信機ハ之ヲ露国側ニ譲渡ス

無線　亜港北部無線（二十吉（キロワット））ハ之ヲ撤去還送ス亜港南部無線（五吉）ハ其儘露国側ニ引渡ス其他ノ無線器材ハ全部撤去還送ス

但シ軍撤去行動間ノ通信ニ支障ナカラシムル如ク撤去

時期ヲ定ム

五、押収物件（土地建造物ヲ含ム）

押収品等軍管理ノ露国官公有財産ハ現状ノ儘之ヲ露国側ニ引渡ス

六、土地建造物

土地ノ内在外公館及居留民ニ於テ必要ノモノハ成シ得レハ従来得タル権利ヲ保有シ其ノ他ノモノハ露国側ニ譲渡ス

軍ニ於テ施設セシ建造物ノ内在外公館及居留民ニ於テ必要ノモノハ之ヲ我方ニ於テ保有シ其ノ他ノモノハ成ルヘク売却シ又ハ適宜処分ス

七、五月十五日迄ニ輸送シ得サル軍需品等（兵器弾薬ヲ除ク）ハ前各項ニ準シテ適宜処分ス

第四　民政ノ引継

一、民政上ノ引継ニ関スル交渉措置ハ五月十五日迄ニ完了スルモノトス

二、将来係争問題等ノ惹起セサル如ク総テノ契約等ハ此際相互協議ノ上打切リテ結末ヲ付ケ又証拠書類等ハ一切之ヲ蒐集シ置クモノトス

三、軍撤去ニ決セハ成ルヘク速ニ外交官吏ヲ北樺太ニ派遣シ引継等ヲ容易ナラシムル如ク外務側ニ交渉ス

四、軍ノ許与セシ権利等（条約ニ定メラレタル利権等ニ関スルモノヲ除ク）ハ民政ノ引継ニ際シ露国側ヲシテ成ルヘク之ヲ認メシムル如ク軍ニ於テ交渉ス

五、人工孵化場、農事試験場、養狐場、亜港ニ於ケル水道、公衆電話其ノ他港湾付属設備等ハ露国側ニ譲渡ス

六、軍撤去ノ際我居留民及露国人ノ撤去ニ就テハ成ルヘク地方ノ一般交通船ヲ利用セシム但シ已ムヲ得サルモノハ便宜ヲ与フ

（欄外記入）

外務省ヘノ公文中二月二十日ハ条約ノ効力発生後ヲ意味ス

三五〇　二月二日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛

地方的渉外問題ニ関シ樺太庁長官ノ意見報告ノ件

薩司謀第四八号

大正十四年二月二日

薩哈嗹州派遣軍参謀長　佐藤　栄樹

陸軍次官　津野　一輔殿

北樺太ノ行政引継ニ関スル細目打合ト北緯五十度ノ国境付近ニ於ケル地方的渉外問題トノ関係ノ件通牒

（付　箋）

日露基本条約付属議定書第三条ニ依リ北樺太ノ行政引継ニ関スル細目ノ打合ニ於テハ将来北緯五十度ノ国境付近ニ於テ起ルコトアルヘキ地方的渉外問題ヲモ此ノ機会ヲ利用シ成ルヘク有利ニ解決シ得ハ有利ナルヘキヲ信シ樺太庁長官ノ意見ヲ照会致候処左記ノ通意見回答有之之等ハ打合ノ状況ニ応シ好機ヲ見テ成ルヘク行政又ハ施設引継事項ノ性質ニ関連シテ提議解決シ其形式トシテハ純粋ナル地方的事項トシテ相互ニ諒解スル程度ノ文書ノ交換程度ト致度意向ニ有之一応中央部ノ意向承知致度候也

左記

一、「ピレオ」川上流三万四千余町歩此ノ蓄積約一千万石ハ邦領ニ属スルモ此ノ森林ノ利用ハ下流露領ニ属スル河川ヲ利用シ「ピレオ」ニ搬出セサレハ其利用不可能ノ状態ナリ斯ノ如キ国際的河川ニ在リテハ相互ニ搬出上必要ナル河川及土地ノ使用ヲ諒解スルコト

二、国境付近ノ日本臣民カ露領ニ入ル場合ニハ簡単ナル手続ニ依リ安全ニ往来シ得ヘキコト木材流送及其ノ他ノ業務ニ従事スルモノ等ハ特ニ其ノ必要ヲ感ス

三、国境付近ノ土人ニ対シテハ相互ニ其ノ居住及移転ヲ強制セサルコト土人ハ何レノ国籍ヲモ有セサルヲ以テ互ニ之ヲ放逐スルカ如キハ不可能ナルニ依ル

（付　箋）

一、三月二十日楡淵大尉ヲ貴課ニ出頭セシメ御意見ヲ伺ハシメ候処貴課ニ於テハ其当時樺太庁ニ対シ同様ノ件ニテ照会中ノ由ニテ樺太庁ヨリ回答後ニ於テ当方ニモ御意見ヲ発表相成様御話シアリシモノナリ

二、未タ軍ヘハ当方ノ意見発表シアラス

三五一　二月十四日　幣原外務大臣ヨリ在アレクサンドロフスク鈴木通訳官宛（電報）

領事館開設準備及ビ撤兵ノ細目協定交渉ノタメ島田領事出張ノ件

第一号

北「サガレン」ニ領事館開設ノ準備ヲ為スノ外軍司令官ヲ補佐シテ今回ノ日露協定中撤兵条項ニ依ル細目協定ニ当ラシムル為島田領事（滋）ヲ貴地ニ出張セシムルコトトシ同

官ハ後藤通訳生帯同二月十七日東京発二十五日亜港着ノ予定ナリ貴官及本多書記生ハ前記ノ事務其他ニ関シ同官ヲ補助セラレタシ尚貴官ハ軍撤退完了後モ当分亜港ニ滞留ノコト心得ラルヘシ

（別　紙）

島田領事ノ資格ニ付テ

今回北京ニ於テ日露間ニ協定成立シタルニ顧ミ帝国政府ハ領事島田滋ヲ北「サガレン」ニ出張セシムルニ決定シタル処同官ノ資格ニ関シ陸軍省軍務局ヨリ同官ヲ軍司令官ノ隷下ニ属セシムルコトトナルニ於テハ好都合ナル旨申出アリ然ル処同官ノ任務ハ北「サガレン」撤兵ニ関連スル行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目ノ協定事務ニ関与スルノミニ止マラサルヲ以テ一般的ニ軍司令官ノ隷下ニ属セシムルヲ得サルモ北「サガレン」撤兵及行政引継ニ関スル交渉事項ニ付テハ占領軍司令官之ニ当ルヘキ旨議定書（甲）第三条第三項ニ規定セラレアルニ顧ミ右交渉事項ニ関スル限リ軍司令官ノ指揮ヲ受クルヲ適当トスヘキヤ勿論ナルニヨリ島田領事ヲ軍司令部ノ嘱託トシ右交渉ニ関シテハ軍司令官ノ指揮ヲ受ケシムルコトトシ然ルヘシ

三五二　二月十五日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北「サガレン」ソヴィエト側引継委員等ニ関シ報告ノ件

第一五三号　（二月十六日接受）

貴電第九三号及第九四号ニ関シ

御訓令ノ趣二月十五日宮川ヲシテ「カラハン」ニ申入レシメタル処

㈠露国側引継委員ニ関シ「カラハン」ハ右委員ハ連邦中央執行委員会ノ任命ニ係リ今日迄判明セル人員ハ「アボルチン」（委員長）「カツワ」「シシリヤンニコフ」（沿海県執行委員会長ニシテ最近当地ニ来リ万端ノ打合セヲ為シ「ハバロフスク」ニ向ヘリ日本軍北樺太撤退後ハ多分同地ノ執行委員会長タルヘシ）「クラスニコフ」「ボシキン」「イェブエツキー」「プレッシン」「ガイダルジ」ノ八名ニシテ「アボルチン」ハ二月四日莫斯科出発「ハバロフスク」ニ向ヒタルカ同地ニ於テ一行勢揃ノ上二月二十日頃出発尼港「ポゴビ」ノ経路ヲ取リ亜港ニ赴ク予定ナルモ亜港到着ノ日取リ及一行ノ総人員等ハ「アボルチン」「ハバロフスク」着ノ上ナラテハ判明セス孰レ判明次第更ニ通報スヘシト述ヘ

㈡「ベッサラビヤ」往復書翰発表問題ニ関シ露国側トシテハ発表セサル方有利ナルヲ以テ発表セサラン事ヲ希望スル次第ナルモ莫斯科政府ハ此ノ前自分ノ私見トシテ申置キタル通単ニ「日本カ「ベッサラビヤ」条約ヲ批准セス」トノ事ヲ発表スル事ニハ異存無キモ「凡ヘテノ欧州署名国カ批准ヲ完了スルニ非サレハ」トノ条件付ニテ発表スルコトハ伊国ニ対スル手前甚タ「デリケート」ナルニ付同意シ難シト思考シ居ル旨ヲ語リ最初ノ了解ヲ維持セン事ヲ主張シタル趣ナリ

尚露国側批准ノ日取リニ関シ「カラハン」ハ此度両三日中ナルヘシト語リタル由ナリ

編註　本電㈠露国側引継委員ニ関スル部分ハ二月十七日出淵外務次官ヨリ津野陸軍次官、安保海軍次官ニ通知セラレタ

三五三　二月十六日　出淵外務次官ヨリ津野陸軍次官宛

島田領事ノ任務ニ関スル訓令写送付ノ件

欧一機密第九号

一二　北樺太派遣軍ノ撤退　三五三

北「サガレン」派遣島田領事ニ対スル訓令写送付ノ件

今般北「サガレン」ニ出張ヲ命セラレタル島田領事ニ対シ別紙写ノ通発令相成候条右御承知相成度此段申進候也

（別添島田領事宛訓令写一通添付ノコト）

（別　紙）

欧一機密第三四号

幣原大臣

島田領事

今般貴官ニ対シ北「サガレン」ニ出張ヲ命シタルニ就テハ左記要旨ニ依リ行動セラレタシ

一、貴官ハ軍司令官ノ指揮ノ下ニ軍司令官ヲ補佐シテ日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約付属議定書第三条第三項ノ事務ニ従事スヘシ

一、行政引渡及占領終了ニ関スル協定事項ニシテ外交ニ関係アルモノノ中軍司令官ヨリ陸軍省ヲ経テ外務省ニ協議セラルヘキモノ以外ニ於テ軍司令官ヨリ直接貴官ヲ経テ外務省ノ意向ヲ承知セムトスルモノアラハ其ノ都度本省

ニ電報セラレタシ

一、北「サガレン」ニ於テ日本国軍隊ノ撤退シタル地方ニ於テ日露間ニ事件ノ発生スルコトヲ防止スルニ努ムヘク尚日露間ニ紛争事件発生シタル場合ニハ必要ニ応シ軍司令官トモ協議ノ上日露双方ニ公正妥当ナリト認メラルル所ニ依リ之カ円満解決ニ努メラルヘク事態重大ナルモノニ付テハ外務大臣ニ請訓スルヲ要ス

一、北「サガレン」ニ於ケル利権ニ関スル事項ニ関シテモ其実状ヲ成ルヘク広キニ渉リ調査スヘシ

一、北「サガレン」ニ於ケル帝国領事館ノ設置ニ関シテモ之ニ必要ナル調査及準備ヲ為スヘシ

三五四　二月二十四日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

オハ在留邦人保護ノタメソヴィエト民警ノ急派ヲカラハンヘ交渉方訓令ノ件

付記　二月六日付橋本北辰会会長ヨリ幣原外務大臣宛書翰

オハ石油鉱場安全操業保護方交渉依頼ノ件

第一一七号

大正十四年二月六日

株式会社北辰会会長　橋本圭三郎（印）

外務大臣　幣原喜重郎殿

北樺太オハ石油鉱場ニ関スル件

今回日露条約ノ成立ニ伴ヒ三月上旬北樺太オハヨリ我駐屯軍御引上ノ模様有之候タメ同地ニ駐在致居候本社従業員約六十名ハ近時益不安ノ念ニ駆ラレ軍ノ御引上ト共ニ同地引上ヲ為スノ已ムヲ得サルニ立到ルヤモ不計ル状態ニ有之候抑モ彼等従業員カ如此畏怖スル所以ハ去ル大正九年尼港事件ニ伴ヒ北樺太ニ於テ所在兇暴ノ徒現ハレ現ニ本社従業員二百余名ハ氷雪ヲ冒シ身ヲ以テ邦領樺太ニ避難シ避難後ハ鉱場ヲ破壊セラレ船舶機械其他ノ物資モ掠奪セラレタル苦キ経験ヲ有スル上ニ目下北樺太西海岸ニ居住セル千余ノ露鮮人其他カ客年来食物不足ノ折柄トテ何時蜂起シテ鉱場ヲ襲フヤモ不計ル模様アルカ為メニシテ洵ニ不得已儀ト存候故ニ彼等ノ安堵スル保護方法カ此際速ニ確立セサル場合ニハ勢ヒ引上ヲ決行可致其暁ニハ貯蔵ノ物資ハ掠奪セラレ又多年心血ヲ注キ開拓シタルオハノ鉱場鉄道其他ノ付属設備北樺太東海岸ヨリノ撤兵ハ出来得ル限リ速ニ行ハサレハ全体ノ撤兵ニ大支障ヲ来スヘキヲ以テ「オハ」ニ在ル部隊ハ三月五日頃迄ニ全部撤退スルコトトナルヘキ処御承知ノ通同地ニハ油田経営ノ設備アルノミナラス従業員モ相当在留シ居リ此等従業員ハ先年尼港事件ノ余波ヲ受ケタル前例ニモ鑑ミ甚タシク不安ノ念ニ駆ラレツツアル趣ナリ同地方ノ引継ハ議定書(甲)第三条第三項ニ予定セル細目協定ニヨリ取極メタル上実施セラルヘキ筋合ヒナルモ尼港方面ヨリ露国官憲カ同地ニ至ルニハ相当ノ日子ヲ要スヘキ由ナルニ付其ノ間右従業員ハ何等保護ナキ状況ニ置カルルノ虞アルニ依リ貴官ハ右事情ヲ「カラハン」ニ御説明ノ上露国側ニ於テ民警十名乃至十五名（宿舎ノ関係上多数民警ノ渡来ハ好シカラス）ヲ「オハ」駐在部隊引揚前即チ遅クモ三月五日迄ニ同地ニ急派スル様至急手配アリタキ旨申入レラレタシ尚派遣軍ニ於テハ我方部隊引揚前ト雖右民警ニ対シ出来得ル限リ便宜ヲ供与スヘキニ付右ノ旨ヲモ申添ヘラレタシ

（付記）

二月六日付橋本北辰会会長ヨリ幣原外務大臣宛書簡

オハ石油鉱場安全操業保護方交渉依頼ノ件

ノ壊滅セラルルハ勿論一朝タンク又ハ建物森林等ニ火ヲ放タレンカ油田ノ性質上オハ全部ヲ挙ケテ再ヒ施業スル能ハサル廃地ニ帰セシムヘク斯クテハ折角条約ニ依リ獲得シタル油田利権中ノ眼目トモ云フヘキ部分ハ皆無トナリ洵ニ国家ノタメ憂慮ニ不堪ル次第ニ付此際露国官憲ニ於テ彼等従業員ヲシテ安シテ鉱場ニ駐在シ得ル程度ノ保護ヲナシクル様露国ニ御交渉ノ程願ヒ度尤モ保護方法速ニ確定シ且ツ実際保護ノタメ露国ヨリ派遣スヘキ軍隊其他カ我軍隊ノオハ御引上以前又ハ之ト同時ニ現場ニ到着スルニアラサレハ彼等従業員安堵ノ目的ヲ達スル能ハサル儀ニ候間此際至急何分ノ御詮議ニ預リ度此段奉願上候　敬具

三五五　二月二十五日　在アレクサンドロフスク鈴木通訳官ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

島田領事等到着報告ノ件

第一号

島田領事及後藤通訳生二十四日到着セリ

三五六　二月二十八日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

行政引継ノ諸準備及ビ総領事館ノ開設等ニ関シ報告ノ件

第一号

㈠二月二十五日小官井上軍司令官ト会見ノ折「将来行ハルヘキ行政引継ニ関スル細目交渉ニ際シ事外交ニ関スル事項ニ付テハ陸軍省ヲ経由シ篤ト外務省側ト協議セラルル様致シタキ旨」強ク「イムプレス」シ置キタルニ司令官ハ之ヲ諒トシ右様取計ルヘキヲ約セリ

㈡軍ニ於テハ行政引継ニ関スル準備大ニ整ヒ居レリ詳細ノ事項ニ関シテハ軍司令官並ニ海軍防備隊司令ヨリ夫々陸海軍省ニ電報ノ筈ニ付右取寄セ相成タシ当地陸海軍側ニ対シテハ小官ヨリ依頼シ貴地陸海軍省ヨリ其ノ都度外務省ヘ伝達アル様取計ヒ置ケリ

㈢「オハ」地方ノ労農側民警急速特派方ニ関シテハ軍ヨリモ輸送其他無線電信連絡可能ナル地方ノ労農官憲ニ対シ無線ニテ直接交渉中ナリ

㈣軍ニテハ「アボルチン」一行出迎ヒノ為内田大尉ヲ「ポゴビ」ニ特派スルコトトシ同大尉ハ二十八日早朝当地出発ノ筈当地ニ於テ調査セル処ニ依レハ「ハバロフスク」亜港間目下ノ旅行ハ「ポゴビ」経由ニテ約十四日ヲ要ス可シト

㈤多年帝国軍憲ノ威力ノ下ニ在リタル在留帝国臣民ニ対シ相当ノ安心ヲ与ヘ利権ノ擁護ヲ計ラン為ニハ撤兵後当地ニ総領事館ヲ開設スルコト然ル可シト存ス然ルニ軍ノ建築物資夥多アルモ何レモ永久的ノモノアラス従ツテ之カ保管転換ヲ受クルモ保存ニ毎年多額ノ修繕費、維持費ヲ要ス可シ依テ露西亜家屋ヲ手ニ入ルルヲ可トス

詳細ハ追テ報告スヘキモ成ルヘク早目ニ館長ノ資格、館員ノ総数承知致度シ

㈥労農側地質会社「ポレウヲイ」利権調査ノ為当地ニ来タル趣ノ処同人ハ曾テ大正十一年頃当地方ニ在リ日本当局及当業者トモ円満関係アリタルモ其後労農側ニ走リタルモノナルカ本人ハ現場ノ出来事ニ精通シ居リ今日労農官吏ニシテ同人ノ来着ヲ見ルハ我方ニ取リ頗ル不利ナル関係ヲ生スル虞アル由ニテ軍政部ニテハ種々取越シ苦労ヲ為シ居レリ

三五七　三月二日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

行政引渡ノ細目協定案討議セラレタル旨報告ノ件

付記　三月八日薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長発津野陸軍次官宛電報
行政ノ引渡ニ関スル細目協定第二案

第五号　（三月三日接受）

三月二日軍司令官主宰ノ下ニ北樺太行政引渡シ及占領ノ終了ニ関スル細目協定案討議セラレ本官及鈴木通訳官之ニ列席シタルカ討議急速進行ノ為メ充分研究ノ余地ナク従テ本官等ノ主張ヲ貫徹スルコト能ハサリシ点ハアルモ兎ニ角我方案トシテ軍ヨリ陸軍省ヘ本夕打電ノ筈ニ就キ陸軍省ヨリ御取寄セノ上御査閲相成ル様致シタシ

（付記）
三月八日薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長発津野陸軍次官宛電報
行政ノ引渡ニ関スル細目協定第二案

外二八

三月二日外一二ニ続キ研究ノ上次ノ第二案ニヨリ準備中

北薩哈嗹行政ノ引渡シ及占領ノ終了ニ関スル細目協定

大正十四年一月二十日即千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ署名調印セラレタル日本及「ソウィエト」社会主義共和国連邦間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ト同日付ヲ以テ署名調印セラレタル議定書（甲）第三条ニ基ク北薩哈嗹行政ノ引キ渡シ及占領ノ終了ニ関シ細目ヲ協定セン カ為同議定書所定ノ日本占領軍司令官陸軍中将井上一次及「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者「アボルチン」ハ「アレクサンドロフスク」ニ於テ会合シ左ノ条項ヲ協定ス

第一章

「ソウィエト」社会主義共和国連邦民警ノ配置

第一条　「ソウィエト」社会主義共和国連邦政府ハ行政ノ引キ渡ヲ受ク可シ

地境ノ治安維持ヲ準備スルタメ左ノ区分ニ依リ其ノ民警ヲ配置スヘシ

（註釈以下表ニテ各行上ヨリ下ヘ）

実施順序配置完了期日、地方、民警配置経路、人員

第一期　三月　日（追而日次ヲ記ス）

北薩哈嗹東海岸北緯五十三度ノ点ト同西海岸北緯五十一度四十分ノ点トヲ連ヌル線以北黒竜海湾ヲ経テ

「オハ」及「オハ」以南東海岸ニ沿フ地方並「ポゴビ」及「ポゴビ」以南西海岸ニ沿フ地方ニ配置スルモ両方面共何レモ合計十五人以内

第二期　三月二十日北薩哈嗹東海岸北緯五十二度二十分ノ点ト同西海岸北緯五十一度二十分ノ点トヲ連ヌル線以北第一期ノ地方ニ達スル地方

第一期ノ配置ニ就キタル者南進ス

「チャイオ」及「チャイオ」以南東海岸ニ沿フ地方及西海岸ニ沿フ地方ニ配置スル者ハ両方面共十五人以内

第三期　三月二十八日北緯五十一度十分以北

第二期ノ地方ニ達スル地方

第二期ノ配置ニ就キタル者南進ス

「ヌイオ」及「ヌイオ」以南東海岸ニ沿フ地方ニ配置スルモノハ十五人以内

第四期　四月十二日北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以東ノ地方（註釈民警配置経路ノ欄ナシ）

「アダツイム」「デルビン」「ルイコフ」「オノル」各十人以内其他ヲ合シ合計六十人以内

第五期　五月五日北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以西ノ地方（註釈民警配置経路ノ欄ナシ）

百人以内

（註釈付表終リ）

備考　地図ヲ付ス

第二条　「ソウィエト」社会主義共和国連邦民警カ第一条ニ依リ日本軍隊ノ駐屯スル地点ニ於テ配置ニ就クニ当リテハ日本軍ノ軍隊ハ自己ノ任務ニ支障ナキ範囲ニ於テ為シ得ル限リノ便宜ヲ「ソウィエト」社会主義共和国民警ニ与フ可シ

又該地方ノ行政権カ第六条ニ依リ日本占領軍司令官ヨリ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡サレタル後ニ於テモ「ソウィエト」社会主義共和国連邦民警ハ自己ノ任務ニ支障ナキ範囲ニ於テ為シ得ル限リノ便宜ヲ日本軍隊ニ与フ可シ

第三条　「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ハ第一条ニ依リ配置ニ就ク可シ

「ソウィエト」社会主義共和国連邦民警ノ氏名ヲ第一条第一期及第二期ノ者ハ三月十五日迄ニ其他ノ者ハ三月二十一日迄ニ「アレクサンドロフスク」ニ於テ日本占領軍司令官ニ通告スヘシ

第二章　公有財産ノ引渡

第四条　日本占領軍司令官ハ別ニ協定スル処ニ依リ北薩哈嗹ニアル一切ノ公有財産ヲ曾テ前露国政府ノ所有シタルモノナルト同国地方官憲及自治団体ノ所有シタルモノナルトヲ問ハス該公有財産所在地ノ行政権カ第六条ニ依リ日本占領軍司令官ヨリ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡サルルト同時ニ又ハ之ニ先チ引渡当時ノ所在及状態ニ於テ之ヲ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡ス可シ

日本占領軍司令官ハ別ニ要求スル所ニ依リ北薩哈嗹ニアル一切ノ私有財産ノ内現ニ管理者ヲ有セス又ハ所有者判明セサル為日本占領軍ニ於テ保管シアルモノ及日本占領軍ノ施政期間内ニ日本占領軍カ買収又ハ建造シタル公有財産ノ内日本占領軍カ自ラ該公有財産ノ処分ヲ為ササルモノハ前項ニ準シ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡スヘシ

第一項及第二項ニ依リ日本占領軍司令官カ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡シタル一切ノ財産ニ関シテハ日本及「ソウィエト」社会主義共和国連邦政府相互間ニ於テ何等ノ補償ヲ要求スルコトナク又「ソウィエト」社会主義共和国連邦政府ハ第一項ニ依リ日本占領軍司令官ヨリ引渡ヲ受ケタル公有財産ノ内社会ノ福祉ヲ増進スル為メ日本国占領軍カ設置シタルモノニ就テハ其主旨ヲ継承シテ社会ノ福祉ヲ増進スル如ク之ヲ使用スルコトニ努ムヘシ尚日本臣民ハ之等公有財産ノ内将来公共ノ用ニ供セラルルモノノ使用ニ就キ「ソウィエト」社会主義共和国連邦国民ト同様ノ取扱ヲ受クヘシ

第五条　日本国及「ソウィエト」社会主義共和国連邦間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ト同日付ヲ以テ署名調印セラレタル議定書（甲）ニ基キ北薩哈嗹ニ設置セラルヘキ日本国領事館（複数）ノ為メ日本国政府ハ従来日本国占領軍カ使用シアリシ公有財産ノ内ヨリ別ニ日本国占領軍司令官ト「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者トノ間ニ協定スル所ニ依リ選定シテ是レヲ保有スヘク又日本国及「ソウィエト」社会主義共和国連邦両国間ノ善隣関係ヲ促進スルタメ日本人居留民団体ニ保有セシ

ムルヲ要スル公有財産ハ別ニ日本国占領軍司令官ト「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者トノ間ニ協定スルトコロニ依リ第四条ノ財産ノ引キ渡シヨリ除外セラルヘク尚「ソウィエト」社会主義共和国連邦国民ハ是等日本人居留民団体ノ保有スヘキ公有財産ノ内公共ノ用ニ供セラルルモノノ処置ニ就キ日本国臣民ト同様ナル取扱ヲ受ク可シ

前項ニ依リ日本国政府及日本人居留民団体ノ保有ス可キ公有財産ニ付随スル土地ニ関シテハ該公有財産ニ付属スルモノトシ「ソウィエト」社会主義共和国連邦政府ハ日本国政府及日本人居留民団体ニ対シ将来何等ノ補償ヲ要求スルコト無カル可シ

第三章

行政ノ引渡

第六条　日本国占領軍司令官ハ北薩哈嗹ノ一切ノ行政権ヲ概ネ左ノ区分ニ依リ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡ス可シ

一、北薩哈嗹東海岸北緯五十三度ノ点ト同西海岸北緯五十一度四十分ノ点トヲ連ヌル線以北ノ地方ハ三月十八日正午迄

二、北薩哈嗹東海岸北緯五十二度二十分ノ点ト同西海岸北緯五十一度二十分ノ点トヲ連ヌル線以北第一号ノ地区ニ達スル地方ハ三月二十一日正午迄

三、北緯五十一度十分以北第二号ノ地方ニ達スル地方ハ三月二十九日正午迄

四、北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以東ノ地方ハ四月十四日正午迄

五、北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以西ノ地方ハ五月十五日迄

前項区分ニ依リ行政権ノ引渡ヲ終了シタルトキハ其都度日本国占領軍司令官及「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ハ協同シテ之ヲ公表ス可シ

第七条　日本国占領軍司令官ハ行政ノ引渡ニ必要ナル記録ハ日本国占領軍ニ於テ現在所持シ又嘗テ前露国政府同国地方官憲及自治団体ノ所有ナリシモノノ中日本国占領軍ニ於テ現在保管シアルモノタルトヲ問ハス之ヲ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡ス可シ

前項ノ引渡ノ実施ニ関スル細目ハ別ニ之ヲ協定ス可シ

第八条　「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ハ日本国及「ソウィエト」社会主義共和国連邦国間ニ経済的協力ヲ促進セシムル為北薩哈嗹ニ於ケル日本国占領軍司令官カ第六条ニ依リ行政権ヲ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡ス時迄ニ日本国占領軍ノ為シタル行政処分中第六条ニ依リ行政権カ日本国占領軍司令官ヨリ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ移転スル日以後尚北薩哈嗹ニ於テ其効力ノ存続スルモノニ対シテハ其効力ハ将来ヘ継続スルモノト認ム可シ日本国占領軍司令官ハ前項ニ依リ効力ヲ存続セシム可キ行政処分ヲ成ル可ク速ニ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ通告ス可シ

第四章

占領ノ終了

第九条　日本国軍隊ハ第六条ニ定ムル地方ト日時トノ区分ニ従ヒ一切ノ行政権ヲ日本国占領軍司令官ヨリ「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者ニ引渡シタル時ハ速ニ該地方ヨリ撤去ス可シ

本協定ハ日本文及露文ヲ以テ各二通ヲ作成シ日本国占領軍司令官及「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者之ニ署名調印ノ上双方日露両文各一通ヲ保存シテ之カ証拠トス

大正十四年　月　日

一九二五年　月　日

「ソウィエト」社会主義共和国連邦代表者　井上一次　氏名

三五八　三月二日　宇垣陸軍大臣ヨリ幣原外務大臣宛

サガレン派遣部隊ノ復員ニ関シ通牒ノ件

復第十四号

左記部隊ノ復員ヲ令セラル各部隊ハ其ノ復員地到着ノ日（薩哈嗹州派遣軍司令部ニ在リテハ最終ノ隷下帰還部隊復員地到着ノ日）ヨリ逐次復員スルモノトス

薩哈嗹州派遣軍司令部

薩哈嗹歩兵第一大隊

薩哈嗹歩兵第二大隊

薩哈嗹工兵中隊

薩哈嗹鉄道隊

薩哈嗹電信隊
薩哈嗹陸軍病院
薩哈嗹軍政部
薩哈嗹憲兵隊

大正十四年三月二日　午後二時

陸軍大臣　宇垣　一成（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

三五九　三月十一日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ヅウエ炭坑ノ現状ニ関シ報告ノ件

第一二号　（三月十二日接受）

「ドウエ」炭坑ヲ見ルニ規模稍々大キク作業シ居ルハ二ケ所ナリ其ノ坑道ノ外部ニ開口シ居ル個所五ケ所アルモ内三ケ所ハ休止シ居ルヲ以テ作業中ノ「レヴェルピット」ハ二個ト云フヲ得ヘク右ノ外最近着手セル「ピット」二ケ所（内一ケ所ハ頗ル有望ナリト）アリ右ハ坑道ニ特ニ古キ枕木ヲ使用シ故意ニ既ニ相当期間作業シ居ルモノノ如ク装ヒアルモノナルカ一ハ既ニ出炭少量アルモ他ハ殆ト出炭ナシ我方トシテハ此ノ一個ト前顕作業中ノ二ケ所トヲ併セテ現在「レヴェルピット」四個ナリト労農側ニ説明スル次第ナルカ先方ニ於テ直クニ之ヲ承服スヘキヤ懸念セラル軍政部ハ当初行政引渡ニ際シ「カラハン」ノ約束ヲ盾ニ「アボルチン」ヲシテ当面ニテ現作業区域ヲ「ピット」四個トシテ明確ニ承認セシメタキ意向ニテ又三菱側ニテモ「カ」ノ約束不履行ノ場合ヲ顧慮シ種々姑息ノ策ヲ案出中ナリシカ本官ハ現場ノ事態複雑ナル而已ナラス実情ニ通暁セル「ポレヴォイ」カ「アボルチン」ト同行シ居ルニ顧ミ此ノ際文書ニテ承認セシムルコトハ到底不能ナルヘキ而已ナラス事態ヲ紛糾セシメ延テ撤兵問題ニ累ヲ及ホスノ虞アリト思考スルニ付我方トシテハ将来先方カ如何ナル態度ニ出ツヘキカハ不明ナルモ主義トシテ労農側カ現場ノ作業継続ニ故障ヲ唱ヘサル限リ素知ラヌ顔ニテ現場ヲ維持シ先方カ何等説明ヲ求メタル場合ハ不完全ナル図面ニテ然ルヘク漠然説明シ若シ先方カ現場ヲ視察シタシト云フ場合ニハ引継交渉ノ末期迄然ルヘク遷延シ先方ヲシテ兎ヤ角苦情ヲ並フルノ暇ナカラシメ結局利権契約迄現状ヲ持チ越ス様努力スルコト適当ト思考セラレ此旨軍政部及三菱側ニ開陳シタルニ両者トモ右ニ同意セリ右御含ミ置キヲ請フ

三六〇　三月十一日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

在オハ北辰会従業員ノ残留ニ関スル件

第一四号

「オハ」ヨリ西岸ヲ廻リ「ポゴビ」経由九日当地着ノ「オハ」小隊長ノ報告ニ依レハ一時不安ナリシ在「オハ」北辰会従業員ハ其後安堵シテ露国民警保護ノ下ニ残留スル事ニ落着「タムレオ」方面ノ露鮮人モ不穏ノ行動ニ出スル模様ナク又対岸尼港方面ヨリ宣伝文ヲ散布シタル証拠モ挙ラストノ事ナル由軍側ニ於テ内話シ居レリ尚軍ハ出先軍警ニ対シ三月中旬迄ニ「オハ」方面ヲ三月下旬迄ニ「チャイヲ」「ヌイウヲ」方面ヲ撤兵スヘキ旨電命シタリ

三六一　三月十二日　土岐北海道庁長官ヨリ若槻内務、幣原外務大臣他宛

転住ノ内外人ニ関スル情報報告ノ件

特高秘収第二五〇八号　（三月十六日接受）

大正十四年三月十二日

北海道庁長官　土岐　嘉平

内務大臣　若槻　礼次郎殿
外務大臣　幣原　喜重郎殿
陸軍大臣　宇垣　一　成殿

指定各庁府県長官殿

薩哈嗹派遣軍撤兵ニ因ル内外人転住ニ関スル件

本年五月十五日頃迄ニ薩哈嗹派遣軍撤兵スルコトトナリタル結果民政地域内ヨリ転住スル内外人左記ノ趣キ情報有之迄御参考

記

一、日本人一七四〇人
　内訳　内地ニ帰国スルモノ九八〇人
　　南樺太ヘ転住スルモノ七六〇人
二、鮮人七三三人
　内訳　日本ニ転住スルモノ四〇人
　　朝鮮ニ帰国スルモノ二二〇人
　　南樺太ニ転住スルモノ三三〇人
　　浦潮ニ転住スルモノ一〇人
　　未定一三三人
三、露国人七五人

内訳　日本ヲ通過滞在希望ノモノ三五人
南樺太ニ転住スルモノ四〇人

三六二　三月十三日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

撤退時ニオケル囚人ノ措置ニ関スル件

第一七号

軍ニ於テハ其撤退ト共ニ軍ノ従来為シタル諸般ノ措置モ亦終了スヘキモノナリトノ見地ヨリ撤兵完了迄ニ囚人ハ全部之ヲ解放スル事ニ決シタル趣ノ処之カ実行ノ任ニ当ル軍政部長ハ一時ニ之ヲ解放スルコトハ一般市民ニ不安ヲ与フルニ依リ改心ノ情顕著ナル者ヲ減刑スルノ方法ニ依リ逐次数名ツツ釈放スル事トシ殺人強盗犯六名外数名ノ重罪犯ニ対シテハ監禁ノ儘露国側ニ引渡スコトトシ度キ考ヘナル旨三月十二日本官ニ内話シタルニ依リ本官ハ軽罪ノ者ハ逐次釈放スル事トスルモ重罪犯並危険ト認メラルル囚人ハ露国側カ軍法員ノ判決ヲ承認スルカ否カニ拘ハラス事実トシテ監禁ノ儘露国側ニ引渡スヲ至当トスヘク然ラスシテ此際一時ニ囚人全部ヲ釈放セムカ露国側ハ必スヤ日本軍ハ撤兵後不良ノ徒ノ横行シ秩序乱レム事ヲ望ムノ底意ニテ故意ニ斯カル措置ヲ為セリトテ内外ニ悪宣伝ヲ放ツヘク結果甚タ面白カラサル可シト述ヘタルニ軍政部長ハ之ヲ諒トセリ

三六三　三月十三日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

鮮銀出張所ノ存続方意見具申ノ件

第一八号　（三月十四日接受）

十二日軍政部長ノ談ニ依レハ軍ニ於テハ当地鮮銀出張所廃止ノ件ニ就キ三月六日陸軍省ニ電稟シタル由ノ所昨今軍ノ引揚準備ノ行ハルルト共ニ鮮銀紙幣ニ対シ不安ノ念ヲ抱クモノ増加シ現ニ「ルイコフ」ニ於テハ或ル商取引ニ於テ鮮銀紙幣三〇〇円ハ日本銀行券二五〇円ニ相当シタル如キ甚タシキ例アリ又当地ヨリ本邦又ハ南樺太ニ赴キタルモノモ鮮銀紙幣ノ流通セサル為多大ノ不便ヲ感シ其結果此ノ地ニテ日本銀行券ト引換方申出テ居ル向キモアル今日突如鮮銀出張所ノ廃止ヲ見ルハ甚タ面白カラスト思考ス将又軍ノ撤去総領事館ノ開設等ノ行ハルル過渡期ニ於テ当地ニ何等ノ金融機関モナキハ不便此上モナク且鮮銀トシテモ一旦引揚ケタル上更ニ再来スルコトハ困難ナルヘキニ就キ兎モ角右出張所ハ引続キ当地ニ存続セシムル様関係各省ト御協議相成ル様致シタシ何分ノ儀御回電ヲ乞フ

三六四　三月十三日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北樺太一帯ノ解氷ニ伴イポゴビー地方ヨリ早期撤兵ノ方針ニツキ軍側ヨリ申入レノ件

第一九号（至急）

十日頃「ポゴビー」着ノ筈ナル「アボルチン」一行十六名及民警十二名ハ今ニ至ルモ来着セス然ルニ本年ハ北樺太一帯例年ニ比シ早ク解氷シ「ポゴビー」当地間ノ交通モ最近危険ニ迫リツツアルヲ以テ此ノ際軍側ニ於テ露国民警ノ来着ヲ待タスシテ「ポゴビー」地方ヨリ撤兵セント考ヘ居リ本年対岸ヨリ樺太ニ至ル氷ハ到ル処薄キ由ナルヲ以テ「ア」一行ノ渡来モ之カ為遷延シツツアル様思ハルルモ軍ニ於テハ「オハ」同様「ポゴビー」方面モ露国民警ノ来着ト共ニ之ニ治安維持ヲ託シテ至急撤兵シタキ方針ナルニ付右ノ事情ヲ篤ト「カラハン」ニ通シ「ア」一行ノ渡来ヲ取急ク様交渉方軍側ヨリ依頼アリタリ就テハ右然ルヘク御取計ヲ請フ

三六五　三月十三日　出淵外務次官ヨリ津野陸軍次官宛

北サガレン行政ノ引渡シ及ビ占領ノ終了ニ関スル細目協定案ニツキ外務省意見送付ノ件

欧一機密第一七号

北薩哈嗹行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目協定ニ関スル件

本件ニ関シ本月十二日付西密第二七号ヲ以テ御申越ノ趣了承本件協定案ニ関スル当省ノ概括的意見ハ別紙ノ通ニ有之候条右ニ御承知相成度此段申進候也

（別紙）

薩哈嗹軍司令部立案行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目協定案ニ付テ

（欄外註記一）

一、本案中排列ノ順序及措辞ニ付相当修正ヲ可トスル箇所アルノミナラス実質的事項ニ付テモ出来得ル限リ簡明ナラシムルヲ可トスヘキカ特ニ重要ナル点ニ付左ニ列記センニ

二、本案第一条　民警ノ排置ハ第六条行政引渡ノ区分ニ関連スルトコロ両者共其区分ヲ今少シク減少スルノ方法ナ

カルヘキカ尚民警ノ排置経路及其ノ人員ヲ原案ノ如ク厳ニ制限スルノ必要アリヤ

三、本案第三条ハ特ニ必要ナカルヘシ

四、第四条、第五条、第七条、第八条中別ニ協定シ又ハ通告スル旨ヲ掲ケアル事項ハ今次交渉カ細目ノ取極ナルニ顧ミ本協定ト同時且具体的ニ取極ヲ了スル必要アリ

（欄外註記二）

五、第四条末項中『「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ第一項ニ依リ日本国占領軍ヨリ引渡ヲ受ケタル公有財産中社会ノ福祉ヲ増進スル為日本国占領軍カ設備シタルモノニ付テハ其ノ趣旨ヲ継続シテ社会ノ福祉ヲ増進スル如ク之ヲ使用スルコトニ努ムヘシ』トノ一節ハ之ヲ削除スルコト然ルヘシ

六、第五条第二項ニ於テ土地ヲモ領事館及日本人会ノ為留保スル公有財産ニ付随スルモノトシテ無償ニテ之ヲ保有セントスルハ要求過当ナリ依テ第二項ハ之ヲ削除スルカ又ハ借地ニ関スル規定ニ改ムルヲ要ス

七、第七条所載記録ノ引継ハ少クトモ鉱業台帳ニ関スル限リ内外ニ及ホス影響大ナルニ依リ派遣軍ヨリ事情ヲ徴シ篤ト其ノ利害ヲ講究スルノ必要アリ

八、第八条所載日本軍ノ為シタル行政処分ノ効力ヲ其儘将来ニ認メシメントスルコトハ同条第二項ニ依リ我方ヨリ適宜裁量ヲ加ヘ先方ニ通告シ得ル途ヲ存スルモ第一項ハ軍ノ為シタル行政処分ハ該処分ニ付セラレタル期間ノ満期迄ハ将来尚其ノ効力ヲ継続ストノ原則ヲ定ムルコトト為リ然ル場合ニハ軍ニ於テ確認若クハ許可シタル鉱業権モ或ル期間継続スルコトト為リ自縄自縛ニ陥ルヘキニ依リ本条規定ハ軍ノ為シタル行政処分中実際ニ必要ナル事項即土地ノ貸下ケ又ハ漁区ノ貸下ケ等ノミニ限ルコト然ルヘシ尚其他本件ハ主義上ノ問題トシテ先方ノ同意ヲ取付クルコト困難ナルヘキヲ考慮スルノ必要アルニ依リ最初口頭ニテ前記ノ趣旨ニ依リ交渉シ話合ノ付ク場合之ヲ文書ニテ規定スルコト適当ナリト認ム

（欄外註記一）

「陸軍軍務局ヨリ本協定案ニ付大体ノ意向ノミニテ可ナルニヨリ大至急回示アリタキ旨申越セリ」トノ東郷欧米局第一課長ノ記入ガアル

（欄外註記二）

「此ノ点頗ル同感ナリ然ラサレハ後ニ至リ領事ニ於テ困難ナル交渉ヲ引受クルニ至ルコトナキヲ保セス」トノ佐久間条約局第一課長ノ記入ガアル

三六六　三月十四日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

軍側ノ各種備品譲渡ニ関シ請訓ノ件

第二三号

往電第一号ニ関シ未タ何等御来示ニ接セサルモ亜港「オハ」並ニ尼港ニ於テ我カ公館ノ追設セラルル義ハ既定ノ事実ナリト存スル処近ク当地駐在日本軍ノ撤退ニ伴ヒ右公館ニ必要ト認メラルル事務用並ニ宿舎用各種備品ヲ此際軍側ヨリ保管転換ノ形式ヲ以テ譲渡シ度キ旨申出有リタルニ就テハ本官ハ公館開設準備ニ関スル御訓令ノ趣モ有之至極ク好都合ナルヘシト認メ臨機ノ処置トシテ之ニ対シ内諾ヲ与ヘ置キタリ就テハ軍側ニ撤退期接近シ準備ノ都合モアリ右手続ヲ速ニ完了シ備品ヲ残置引渡シ度キ意向ナル処如何取計ヒ然ルヘキヤ至急御回示相成度シ

三六七　三月十六日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

アボルチン一行ポゴビーニ到着ノ件

第二五号

一二　北樺太派遣軍ノ撤退　三六六　三六七　三六八

一課長ノ記入ガアル

三六八　三月十六日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

備品食料ヲ領事館用トシテ残置セラルルヨウ陸軍省ニ交渉方稟請ノ件

第二六号

往電第二三号ノ通リ海軍防備隊側ヨリ備品保管転換方申出テアリタルヲ以テ前電ノ通リ電報シタル次第ナルカ尚陸軍側ニ於テモ本官当地着ノ際井上軍司令官ヨリ同司令官邸内備品一切ハ之ヲ領事館用トシテ残シ置クコトニ致シ差支ナキ旨内話アリタルカ十六日武山（タケヤマ）軍経理部長ト会見ノ際同部長ハ陸軍省ヨリノ命令ニ依レハ軍ノ建造ニ係ル家屋ハ之ヲ領事館用トシテ残置差支ナキモ使用ニ堪ヘサル物品ヲ除キ「ポゴビー」ヨリ軍ヘノ着電ニ依レハ「アボルチン」一行（計一八名内委員五護衛者一二他ハ通信員）ノ先駆「イリイン」（?）外一名十五日「ポゴビー」着「ア」一行ハ十六日午後四時「ポゴビー」着ノ旨通告セル由尚其際「ア」ハ「イリイン」ヲ経テ井上司令官ニ対シ亜港迄ノ旅行ニ関シ便宜供与方願出テタルヲ以テ司令官ハ右ニ対シ快諾ノ回答ヲ発セリ

全部内地還送ニ決定シ居リ特ニ陸軍省ノ命令ナキ限リ備品等ヲ領事館ニ保管転換スルコト能ハス尚還送品ハ既ニ荷造ニ着手中ナリト内話セリ然ルニ御承知ノ通リ将来当地総領事館同「オハ」分館及ヒ在尼港総領事館用トシテ多数ノ備品其他ヲ要スル次第ノ所幸ヒ軍ニ於テ多数之等ノ物品ヲ有スルコトニモアリ此際軍司令官官邸備品其他（脱）於ケル領事館ニ対スル必要品ヲ成ル可ク広汎ニ亘リ保管転換ヲ受ケタク尚出来得レハ各種食料品等モ特別ノ計ヒニテ可成領事館用トシテ残置セラルル様陸軍省ニ御交渉相煩ハシタク右特ニ稟請ス但御承知ノ通リ軍ノ物品ハ大体野戦式ノモノニテ領事官舎用トシテ適セサルモノ多カルヘク之等ハ事務所又ハ館員用トシテ配布シ可然ト存スルニ就キ兎モ角之カ保管転換ヲ受クルコトトスルモ之ヲ以テ本省ニ於テ領事館創設費ヲ節約スル等ノコト絶対ニ無之様致シタシ

三六九　三月十六日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛

行政引渡委員島田領事等ニ対スル井上軍司令官ノ訓示進達ノ件

付記　三月三日在アレクサンドロフスク高須俊次薩哈

嘸軍政部長（陸軍少将）発東郷欧米局第一課長宛私信
島田領事派遣ニ関シ外務当局ニ謝意伝達ノ件

機密第六号

大正十四年三月十六日　（四月七日接受）

在亜港　領事　島田　滋（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

行政引渡委員ニ対スル井上軍司令官訓示進達ノ件

先般井上軍司令官ノ任命ニ係ル北樺太行政引渡委員（本官及鈴木通訳官ヲ含ム）ニ対シ三月十日同司令官ヨリ与ヘラレタル訓示別紙ノ通リ御参考迄ニ及進達候間御査閲相成度此段申進候　敬具

（別紙）

薩外第一二号

訓示

行政引渡委員

（付箋）

諸官ハ今般行政引渡委員トシテ日露条約ニ付属スル議定書（甲）第三条ニ基ク本職ノ任務ヲ円満ニ遂行スル為本職ヲ補佐シテ夫々分担ノ業務ニ服セラルルモノニシテ本職ハ諸官ノ精励ニ依リ重任ヲ完全ニ達成セムトシ以テ占領有終ノ美ヲ飾ラムトス茲ニ若干諸官ノ注意ヲ望ム事項ヲ開示シテ諸官ノ服務ニ資スヘシ

一、諸官ノ大部ハ今回ノ如キ渉外事項ニ直接従事セラレタルコトナカルヘキモ協定ノ若干部分ハ直接諸官ノ分担交渉セラレタル準備ニ立脚シテ解決セラルヘキヲ以テ万事慎重ニ処理スルヲ要ス

二、細目協定ノ範囲ハ議定書（甲）第三条ノ範囲ニ止マルヘキモノニシテ此ノ範囲ノ研究ニハ十分注意スルヲ望ム

三、会議ニ於テ常ニ有利ノ地位ニ立ツカ為諸般ノ準備ヲシテ会議経過ノ推移ニ応シ得ル如ク進捗セシメ且局面ノ急激ナル変化ヲモ顧慮シテ周到ナラシムルヲ緊要トス之カ為昼夜ヲ問ハス業務ノ進捗ヲ要求スルコト多カルヘシ特ニ奮励ヲ望ム

四、各機関ノ連繋ヲ密ニシ先方ヲシテ我方ニハ寸毫ノ間隙ナキ様感セシムルコト必要ナリ故ニ分担事項ノ如何ニ論ナク苟モ先方ノ意志ヲ忖度シ得ルカ如キモノハ細大トナク敏活ニ報告通報シテ協定ノ進捗ヲ有利ナラシメタシ

五、我提議及主張ニハ正当ナル理由ヲ伴ハサルヘカラス我方ハ議定書ニ基キ五月十五日迄ニ行政ノ引渡ヲ完了シテ占領ヲ終了スルノ義務ヲ負担スルモノナレハ我方ヨリ先方ニ強制シテ我提議ニ服従セシムルカ如キ感アルモノハ到底其ノ目的ヲ達成シ得ヘキモノニアラス何人ト雖モ承認セサルヲ得サル公明正大ノ理由ヲ否認スルハ却テ先方ノ不利ナリト感セシムル如ク十分ノ工夫ヲ積ムヲ必要トス之カ為ニハ飽ク迄協定スヘキ事項ノ内容ニ注意シ我方ノ主張ニ急ナルノ余リ先方ノ立場ヲ忘ルルカ如キコトナカラシメ万事相互的ニ議事ヲ進メテ実質ノ利益ヲ我ニ収メサルヘカラス威圧的ノ言動ハ寸毫ノ効果ナキコト論ヲ俟タス総テ談笑ノ間ニ於テ円滑ニ進捗セシムルヲ有利トス

六、我占領及之ニ伴フ民政ハ時ノ情況ニ応シ之ヲ善用シ活用シ以テ交渉ノ進捗ニ資スヘシト雖モ之ヲ以テ先方ノ感謝ヲ求メムトスルカ如キ態度ニ出テサルヲ要ス此ノ如キハ保障占領ニ対スル先方ノ感想ヲ無視スルモノニシテ先方ハ之ニ関スル感謝ヲ我ニ払フノ理論的根拠ナケレハナリ

七、我提議及主張中ニハ条約及議定書其ノ他ノ外交文書ニ於テ既ニ決定セラレアル事項ト相容レサルカ如ク誤解セラレ易キ事項ハ諸種ノ関係上已ムヲ得サル場合ニ於テモ露骨

ニ之ヲ包含セシメサル様ニセラレタシ之カ為十分之等外交文書ヲ研究シ置クヲ必要トス

八、尼港事件ハ既ニ円満ニ解決セラレタルモノニシテ此ノ如キ過去ノ事件ニ付交渉間ニ先方ノ感情ヲ害フハ交渉上非常ニ不利ナルノミナラス我方古来ノ道徳ヨリ之ヲ論スルモ決シテ適当ナラサルナリ其ノ他過激派ノ暴行ヲ云々スルカ如キ総テ慎ムヘキ事項ニ属ス

九、先方ヲシテ交渉ニ関スル我誠意ノ有無ヲ疑ハシメ或ハ之ヲ誤解セシムルカ如キコトナキ様注意スルヲ必要トス然ラサレハ交渉ノ進捗停頓シ軍ノ撤去ハ自主的ニ実施シアルモノト何等選フコトナキ結果ニ陥リ軍ノ面目延テハ我国ノ体面上甚タ不利ナレハナリ

十、対岸大陸要点ノ占領ハ既ニ先年終了シタルモノニシテ之ニ関シテハ今回ノ協定ニ於テ何等言及スヘキモノニアラサルコトヲ銘記スヘシ然ラサレハ或ハ恐ル不測ノ事項ニ基キ意外ノ障碍ヲ来スコトヲ

十一、直接先方ト交渉スルニ方リテハ言語動作ニ注意シ紳士ノ態度ヲ以テ之ニ臨ミ懇切ノ裡ニ我威信ヲ保ツコトニ留意スルヲ必要トス

十二、本交渉ハ遅クモ五月十五日迄ニ之ヲ終了スヘキモ其ノ影響ハ将来ニ延長シ引続キ在留スル我官憲及利権開発其ノ他ニ従事スル在留民ノ休戚ハ素ヨリ延テハ両国親善関係ノ全局ニ関係ヲ及ホスコト頗ル大ナルモノアレハ寧ロ一時ノ不利不便ヲ忍フモ将来永遠ニ亘ル我利益ヲ擁護スルノ着意ヲ失サルヲ要ス

十三、交渉ノ準備ニハ秘密ヲ要スルコト極メテ大ナルモノアリ此ノ点ニ付テハ言フ迄モナク絶対ニ関係者以外ニ漏洩スルコトヲ予防スルヲ緊要トス

十四、先方ト交渉スルニ決定シタル事項ノ範囲ニ於テハ文書ヲ以テスルト口頭ヲ以テスルトヲ問ハス数量年月日等数字ニ亘ルモノハ絶対ノ正確ヲ要求ス其ノ不明ナルモノハ寧ロ明瞭ニ精確ナラサルコトヲ先ツ先方ニ説明シ置クヲ要ス一旦先方ノ諒解ヲ得タル事項ヲ後日ニ至リ改メムトスルカ如キハ非常ナル不利ヲ齎スモノナリ然レトモ行政引渡ノ一般目的タル必要ノ限度ヲ超越シテ一切ヲ先方ニ説明スルハ交渉ノ進捗ヲ妨ケ却テ害アルコト勿論ナレハ誤解ナキヲ要ス

十五、交渉ハ渉外事項ナリト雖之ニ基ク対内国的ノ効果ハ内国法規ノ制裁ヲ受クルモノニシテ之ヲ無視シタル処理ハ許サレサルモノトス此ノ点ハ特ニ閑却セラレサルコトヲ望ム

十六、以上述ヘタル事項ハ諸官カ規定ニ依リ本業務ノ為編制上ノ部下ヲ使用スル場合ヲ顧慮シ部下ニ対シテモ亦予メ十分ニ徹底セシメ置クコトヲ望ム

十七、会議ノ経過ハ先方ト協議シテ公表スルモノニシテ我方ニ於テハ本職自ラ之ヲ掌ルヘク諸官カ任意ニ関係者以外ニ其ノ内容ヲ漏洩セサルコト肝要ナリ殊ニ当地ニ於ケル我電信ハ全部我掌握下ニ在レハ先方ノ之ニ対スル注意モ一層切ナルモノアルヘシ厳ニ注意ヲ望ム右訓示ス

大正十四年三月十日

薩哈嗹州派遣軍司令官　井上　一次

（付　箋）

訓示後軍司令官談話要旨

一、会議ニ於ケル国民性ノ美点ト欠点トノ曝露

二、国際会議慣例ノ尊重

三、対外関係ノ機微

（付　記）

三月三日在アレクサンドロフスク高須俊次薩哈嗹軍政部長

（陸軍少将）発東郷欧米局第一課長宛私信

島田領事派遣ニ関シ外務当局ニ謝意伝達ノ件

拝啓多年の懸案たりし日露交渉も外務本省及在北京当局者の偉大なる御努力に依り予期以上有利なる条件を以て目出度日露修交条約批准効力発生を見るに至り候段御同慶に存候尚今回当地へ派遣せられたる島田領事より親敷日露交渉の顛末を聴取し其の折衝か想像以上容易ならさりしを知り更らに一層当局の御苦心察上候

軍に於ても島田領事の派遣に依り日露折衝の実況を知りたるのみならす今後軍の採るへき方針に対し裨補する処尠からす即ち機を得たる島田領事の派遣は其の効果著しきものあるを覚ゆると共に外務省当局の周到なる御配慮に対して特に深甚なる敬意を表する次第に候乍憚次官局長両閣下を始め関係各位へ右の次第宜敷御鳳声方奉願候　拝具

三月三日　　在亜港　高須　俊次

東郷　茂徳殿

三七〇　三月十七日　幣原外務大臣ヨリ在アレクサンドロフスク島田領事宛（電報）

総領事館設置及ビ軍政ニ派生スル問題ノ連絡方法等ニ関スル件

第九号

一、佐藤代理大使ハ本月十九日「ワルソー」発二十三日莫斯科着ノ予定ニシテ同地宿所ハ「ホテル・サボイ」ナル旨同官ヨリ来電アリタリ

二、我方ニ於テハ亜港ニ総領事館ヲ「オハ」ニ其ノ分館ヲ設置スルコトトシ目下追加予算トシテ議会ニ提出中ナリ

三、貴電第一九号及第二〇号ノ趣旨ハ在支公使ヨリ「カラハン」ニ申入レシメタル処対岸ヨリ同地ニ民警急派方ニ就テモ手配スヘキ旨回答シ来レル趣同公使ヨリ電報アリタリ

四、貴電第一八号鮮銀出張所ニ関スル問題ハ軍政ノ善後措置ニ直接ニ関係スル事項ナルニヨリ陸軍省側ニ於テ関係ノ向ト協議ノ上軍政部ヘ回訓スルコトニ話合済ナルニ付右含ミ置カレタク尚此種直接軍政ニ関連シテ発生スル諸問題ニ付テハ今後ハ軍司令官ヨリ陸軍省ヲ通シテ当方ヘ相談セラルル様取計ラハレタク又貴官発電報ハ貴官ヨリ直接或ハ急速ニ当方ヘ電報セラルル必要アルモノノ外ハ軍ヨリ陸軍側ヘノ電報ト重複セサル様適当ノ方法ヲ講セラレタシ

三七一　三月十七日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

軍撤去後ノ残留領事ノ内地トノ通信ニ関スル件

第二九号

軍撤去セハ過渡期ニ於テ当地残留ノ領事事務取扱者ハ全然内地トノ通信方法欠如スヘキニ付夫レカ救済方法ニ付軍側ニ尋ネタル処軍撤去セハ亜港南部ノ旧露国無線電信（五基）並ニ豊原大泊札幌ノ有線及真岡小樽ノ有線電信ノ三電線ヲ好都合ニ使用シ得ル様引渡ニ際シ露国側ニ請求スル方針ナル旨内話アリ就中前記無線ニ関シテハ軍側ニ於テ相当数量ノ必要品ヲ残置シテ領事ノ通信ニ関シ特ニ便宜ヲ計ラシムル計画ナル由ニシテ結局右無線ニ依リ領事ノ電報ヲ発シ得ルコトトナリ得ヘシト思考セラルル処其ノ際ニ至ラハ仮名符号ハ使用不能トナルヘキヲ以テ「アルファベット」符号ノ最モ簡単ニシテ当地尼港及「オハ」領事館等ニ限リ使用スヘキモノヲ適当ノ時期ニ於テ予メ御配布相成様致シタシ

三七二　三月十七日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

撤兵ニ伴ウ当地ノ模様報告ノ件

第三〇号　（三月十八日接受）

軍ニ於テハ「アボルチン」一行来着ノ際軍カ両国々旗ヲ交叉掲揚シテ歓迎スルノ必要アリヤ又市民ヨリ赤旗掲揚ノ「アーチ」建設許可方願出有リタル処右如何取計フヘキヤニ付軍側ヨリ本官ニ問合セアリタルニ依リ本官ハ前者ノ場合ニハ人心ヲ刺激セサル様敢テ何等国旗ヲ掲揚スル必要無カルヘク又後者ノ場合ハ市民各自ノ自由行動ニ任セ然ルヘキ旨答ヘ置キタルカ其後当地以外ニ於テハ既ニ「アーチ」ヲ立テ当地ニテモ同様準備中ナリ露国有産階級ハ不安ヲ感シ御用船便ニテ本邦其他ニ避難セントスル者アルモ一部ハ「ア」一行カ莫斯科及大陸方面ヨリ来リタルモノナルニ鑑ミ差シテ恐ルルノ必要ナカルヘシト為シ尤モ此土地ノ者カ地方官憲トシテ多数採用セラルルニ於テハ事態必スヤ紛糾スヘシト為シ之ヲ恐レ居レリ在留邦人中多数ノ料理店ハ勿論商店モ投売ヲシテ夫々御用船ニ便乗帰国ノ筈残ルハ一〇〇名内外ニ過キサルヘシトノ軍側ノ予想ナリ鮮銀出張所ハ五月七日ヲ以テ閉鎖引揚ケニ内定シ日露実業出張所ハ未定三菱出張所ハ残留スヘシ元来軍ト共ニ来レル当地ノ邦人ハ全然内地気分ナルヲ以テ引続キ露国行政ノ下ニ在留スルニ適セス軍ト共ニ引揚ケルハ理ノ当然ニシテ意ニ介スルニ足ラス次ニ軍政部側ノ情報ニ依レハ昨今撤兵ノ準備開始ニ伴ヒ露人ノ殺人窃盗行ハレ露国下層民ノ対日本軍人態度次第ニ悪化シ来リ現ニ過日「アルコワ」ニ於テハ露人鮮人ヲ殺害シ「カメシノニイ」燈台通過中ノ邦人露人ヨリ襲ハレ輸送中ノ軍需品盗難ニ会ヒタルコトモアリトノ事其他「ヲル」ニ着シタル民警ハ「ギリヤク」二名ニ対シ二人ノ運賃ヲ支払ハサリシ事実アリタル由ナルカ右ハ差シタル事ニ非スト軍政部長ハ語リ居レリ斯ル事態ハ此際免レ難キ現象ト思考スルモ之カ広ク世間ニ伝ハルコトハ甚タ面白カラサルニ付軍ニ於テモ秘密ニ付シ居レリ本官ハ右ニ付篤ト注意シ具体的材料ヲ蒐集スル考ヘナリ

三七三　三月十七日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛

オハニ於テ調印ノ議定書報告ノ件

本普通第四号

（四月七日接受）

大正十四年三月十七日

在亜港　領事　島田　滋（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

深沢中佐「スミルノフ」民警長間調印議定書写送付ノ件

三月十一日「オハ」ニ於テ井上軍司令官ノ命ニ基キ深沢友彦中佐カ「オハ」来着ノ労農側民警長「ニコライ・スミルノフ」ト調印セル議定書写別紙ノ通リ御参考迄ニ及御送付候間御査閲相成度此段申進候　敬具

大正十四年三月十六日　行政引渡委員第一班

「オハ」ニ於テ深沢友彦ト「ニコライ・スミルノフ」間ニ調印セル議定書左ノ如シ

議定書

日本国行政引渡委員「チャイオ」方面守備隊長深沢友彦及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦「オハ」民警長「ニコライ・スミルノフ」ハ「チャイオ」方面日本軍隊撤退ニ際シ其行政引渡ニ方リ日露交渉議定書（甲）第一条第三条ニ基キ左ノ諸条ヲ協定セリ

第一条　「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府「オハ」民警長ハ「チャイオ」方面日本軍撤退後ハ「オハ」及「チャイオ」方面ノ治安維持及将来両国民親善並経済的発展ニ関シテ十分ノ責任ヲ保有ス

第二条　日本国行政引渡委員「チャイオ」方面守備隊長ハ「オハ」ニ於ケル押収家屋自一号至六号ヲ「オハ」民警長ニ返還ス

但シ「オハ」民警長ハ「チャイオ」方面守備隊長ノ当該家屋中第六号ヲ削除ス可キ提議ニ同意ス

第三条　其ノ他ノ諸件ハ「アレクサンドロウスク」ニ於テ日本国占領軍司令官ト「ソヴィエト」社会主義共和国連邦代表者トノ協定及将来「モスクワ」ニ於テ協定サル可キ協定ニ従フモノトス

右証拠トシテ両協約国ノ「オハ」ニ於ケル代表者ハ両国語ヲ以テシタル本議定書二通ニ署名調印セリ

一九二五年三月十一日於「オハ」作製ス

深沢　友彦

ニコライ・スミルノフ

三七四　三月十九日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛

チャイオニ於テ調印ノ議定書報告ノ件

本普通第五号

（四月七日接受）

大正十四年三月十九日

在亜港

領事　島田　滋（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

行政引渡ニ関スル深沢中佐「ヤニコウフ」議定書写進達ノ件

三月十六日「チャイオ」ニ於テ深沢中佐ト民警長代理「ヤニコウフ」トノ間ニ協定セル議定書写御参考迄ニ別紙ノ通リ及進達候間御査閲相成度此段申進候　敬具

大正十四年三月十八日　行政引渡委員第一班

「チャイオ」ニ於テ深沢友彦ト「オハ」民警長代理「ヤニコウフ・ミハイウル」ト協定セル議定書次ノ如シ

議定書第二　日本国行政引渡委員「チャイオ」方面守備隊長深沢友彦及「ソビエット」社会主義共和国連邦「オハ」民警長代理「ヤニコウフ・ミハイウル」ハ「チャイオ」方面日本軍撤退ニ際シ其行政引渡ニ当リ日露交渉議定書(甲)第三条ニ基キ左ノ諸条ヲ協定セリ

第一条　「ソビエット」社会主義共和国連邦政府「オハ」民警長ハ「チャイオ」方面日本軍撤退後ハ「チャイオ」及「ヌイオ」行政区域内ノ治安維持及将来両国民親善並ニ経済的発展ニ関シテ充分ナル責任ヲ保有ス但両国代表者ハ「ヌイオ」行政区域ニ於ケル行政引渡シハ「チャイオ」ニ於テ行フ

第二条　日本国行政引渡委員「チャイオ」方面守備隊長ハ「チャイオ」付近ニ於ケル押収家屋（付図一ヨリ三ニ至ル）ヲ「オハ」民警長代理ニ返還ス

第三条　爾余ノ諸件ハ「アレキサンドロフスク」ニ於テ日本国占領軍司令官ト「ソビエット」社会主義共和国連邦代表者トノ協定及将来「モスコウ」ニ於テ協定サルヘキ協約ニ従フモノトス

右証拠トシテ両締約国ノ「チャイオ」ニ於ケル代表者ハ両国語ヲ以テシタル本議定書二通ニ署名調印セリ

一九二五年三月十六日於「チャイオ」作製ス

深沢友彦

ヤニコウフ・ミハイウル

三七五　三月二十一日　在アレクサンドロフスク真崎軍令部参謀ヨリ安保海軍次官、斎藤軍令部次長各宛（電報）

アボルチン一行ノ到着トコレヲ迎エル露民、邦人ノ状況ソノ他ニ関シ報告ノ件

（三月二十二日接受）

真崎第六番電

一、露国委員一行十九名昨日午前八時護衛兵十六名ヲ伴ヒ当地到着予メ軍ニ於テ準備シ置キタル宿舎ニ投シタリ其編成左ノ如シ

全権アボルチン（外務書記官）

委員カツワ（極東革命委員会事務部長）

委員シシリヤンニコフ（浦潮ノ師団長）

秘書ガイダログ（「モスコー」ヨリ帯同）

外交顧問エウツキー（「モスコー」ヨリ帯同）

海軍顧問プレスチン（浦潮艦隊司令官、不明ノ箇所アリ）

通訳シヤトリヤンゲリ（英独語ニ通ス）

医師ナリユシヤタチ（「モスコー」ヨリ帯同）

「ゲ・ペ・ウ」代表ウオロパエフ（尼港ゲ・ペ・ウ次長）

通信員イリン（哈府ヨリ帯同）

赤兵指揮官スタルツエフ（哈府歩兵大隊長）外赤兵十六名アリ

尚委員一名ト赤兵（数不明）トハ本月三十日頃浦潮発砕氷船ニテ来島スル筈ナリト

二、露民ノ状況

当地ノ赤党代表者並労働者等約二百名ハ委員一行ノ来着ヲ港外ニ迎ヘテ露国最高ノ儀礼タルパント塩トヲ捧ケ代表者二名ハ大要左ノ如キ祝辞ヲ述ヘタリ

謹テ代表一行ノ長途ノ御旅行ニ対シテ感謝ノ意ヲ表シ併テ永年露国ノ治下ニアリタル我薩哈嗹カ再ヒ我代表ノ直接治下ニ帰スルヲ祝ス

右ニ対シ「アボルチン」及「シシリヤンニコフ」ハ大要左ノ答辞ヲ述ヘタリ

余ハ諸子ト共ニ今後一平民トシテ樺太ニ於ケル至幸安民ノ大業ニ服セントス今ヤ欧露ハ駸々乎トシテ復興ノ緒ニ就キ経済的施設亦注目ニ値スルモノアリ当地方モ亦漸ク（？）

ト共ニ其慶ニ浴スルニ至ルヘシト

昨夕来一般ニ市中稍々活気ヲ呈シ露人就中労働者等ノ往来頻ニシテ暗ニ彼等ノ得意ヲ察セシムルモノアリ

三、邦人ノ状況

従来有志ハ寄々露代表歓迎方ニ就キ協議スル所アリシモ多少我軍憲ヲ憚ル所アリテ遂ニ何等ノ所為ニ出テス但シ一昨十八日ニハ残留民大会ヲ開キ将来ノ方針ニ就キ討議シタルモ何等纒リタルモノナシ一般ニ邦人ノ大部分ハ既ニ引揚ニ決シアルヲ以テ特別ノ動揺ヲ見ス

四、本日午前軍ハ島田領事ヲシテ露代表ヲ訪問セシメタリ其ノ結果露代表午後我軍司令官ヲ訪問ス軍司令官ハ之カ答訪ヲスルコトニ決シタルモ今後協定開催ニ関シテハ未タ何等触ルル所ナシ但シ今明日中ニハ何等カノ進展ヲ見ルナラン島田ノ言ニ依レハ「ア」ハ切ニ邦人ノ引揚ヲ思止マラシムル様慫慂スル所アリタリト

五、（第三班長宛）

小官ハ来ル二十五日当地発ノ花咲丸ヲ以テ帰京スル考ノ処今回同船ハ舵ヲ破損シ入渠ノ上修理スル必要生シ次回ハ俄ニ欠航トナリタル為来ル三十一日当地発ノ大泊ヲ以テ帰京スル外手段ナキニ至レリ従テ東京着ハ来月五日頃トナルヘク然ルヘク御承認ヲ得度

二十日

三七六　三月二十一日　在アレクサンドロフスク臨時海軍防備隊司令ヨリ安保海軍次官、斎藤軍令部次長各宛（電報）

第一回日露委員準備会議ノ議事ニ関スル件

（三月二十二日接受）

臨防機密第九十三番電

二十一日午後第一回日露委員準備会議開催海軍ヨリ委員トシテ中島少佐列席ス主ナル議事左ノ如シ

一、露国側ハ議事進行ノ必要条件トシテ直ニ旧露国無線電信所（亜港南部）譲渡ヲ要求セルニ対シ我ハ研究ノ上明日提案スルコトニ回答（脱）テ会議再会ノ筈

二、露国側ハ両国ヨリ交互ニ議長ヲ出スヘキヲ主張セシカ我ハ従来ノ日露会議ニ於テ其例無キヲ理由トシテ拒絶ス

三、露国側ハ日本語通訳ナキノ故ヲ以テ英語ヲ用語トスヘキコトヲ主張セシカ我ハ引渡其他ノ書類ハ何レモ日本語及露語ヲ以テ準備シアルヲ理由トシテ之ヲ拒絶セシモ尚両国ノ協定ニ待ツコトトシテ保留ス

四、露国側ハ浦潮ヨリ当地ヘノ送兵ヲ提議シ明日午前両国分科委員会ニテ協議ノ筈

臨防機密第九十二番電中委員「プレスチン」ハ極東艦隊参謀長海軍少佐ニ付訂正ス

二十一日

三七七　三月二十四日　幣原外務大臣ヨリ在アレクサンドロフスク島田領事宛（電報）

アレクサンドロフスク無線電信所ト我ガ国無線局トノ無線連絡ニ関スル件

第一二号

逓信省ニ於テハ我国ト北樺太トノ電信連絡（豊原ト亜港ヲ連結ノ予定）ヲ亜港ニ於ケル露国電信局開設次第開始致シ度意向ノ処右樺太ニ於ケル連絡線ハ従来ノ経験ニ依レハ故障頻出シ実際通信上支障少カラサルニ付陸線不通中ニ限リ其ノ代用連絡機関トシテ近ク軍ヨリ露国側ニ引継クコトトナルヘキ亜港無線局ト本邦側無線局トノ間ニ無線連絡ヲ行フコトトシ電報料其ノ他取扱方法ハ総テ有線電信連絡ノ場合ト同様トスルコトト致度シトノコトナリ

依テ軍司令官ト打合ノ上亜港無線電信所引渡ニ関連シ右ノ趣旨ヲ以テ我方無線トノ連絡設定ニ関シ露国側ノ同意ヲ取付ケラルル様致サレタシ

右陸軍省ト協議済

三七八　三月二十四日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ソヴィエト側引継委員ノ来着及ビ交渉開始準備ノ模様ニ関シ報告ノ件

第三六号　（三月二十五日接受）

「アボルチン」一行ハ犬橇二十九台犬三百余頭ニ依リテ三月十九日夜威風堂々来着沿道露人大イニ之ヲ歓迎シ爾来当地露人ノ態度変シテ得意トナル一行ハ委員五名及随員護衛兵ヨリ成リ委員ハ各別ニ委任状ヲ有シ何レモ発言及署名調印ノ権能ヲ有シ「アボルチン」ハ委員長タルモ独断専行スルコト能ハス即チ委員会制度ナリ「アボルチン」ハ外交事務「カツワ」ハ元極東共和国内務大臣タリシ関係上内務行政事務ニ従事シ「シシリヤンニコフ」（「カラハン」ト会見シ来レル者）ハ将来北樺太ノ独立ノ県トナリテ之カ革命委員長トナルモノノ如シ「クラスニコフ」ハ軍事「ボシキン」（目下東海岸油田視察中）ハ油田炭田事務ニ従事シ右ノ内「アボルチン」「カツワ」「シシリヤンニコフ」ノ三人ヲ以テ中心トナス一行ノ態度ハ極メテ警戒的ニシテ同時ニ人心ヲ収攬セント力メ穏健ナル態度ナルモ当方トシテハ大イニ注意警戒ヲ要ス一行ハ尼港ヨリ十五名ノ護衛兵ヲ従ヘ来リ「ポゴビ」ニ於テ両国軍隊間ニ敬礼ノ交換ヲ行ハンコトヲ慫慂シ右成功スルヤ当地着ノ翌日当地ニ於テモ同様ノ申出テヲナシ軍ニ於テ護衛兵トシテノ敬礼交換ヲ許スヤ安心シテ一躍浦潮ヨリ多数ノ軍隊ヲ輸送スヘシト申出テ更ニ進テ亜港丈ケハ特ニ軍撤退一月前ニ引渡シヲ受ケ之ニ軍隊ヲ入レタシト申出テタリ本官ハ北京交渉中民警派遣ノコトハ屢々耳ニシタルモ純然タル軍隊ノ派遣ニ就テハ何等聴キ及ハサル而已ナラス「カラハン」氏ハ軍隊ヲ送ルノ意思ナシト迄声明シ居タル次第ヲ篤ト「アボルチン」ニ説明シタルモ先方ハ右ハ中央政府ノ決定故致シ方ナシト答フル而已ナリ先方ハ引渡シヲ受ケ秩序ヲ維持スルニハ軍隊ヲ必要ナリトス結局軍司令官ハ先方軍隊ノ亜港通過ハ致シ方ナカルヘク亜港以外ノ地点ハ宿営所ヲ与フルコトトシ主義ハ毫モ譲レサルモ現場ニ於テハ十分便宜ヲ与フル方針ヲ執ルニ決セリ次ニ先方ハ北京議定書（甲）第三条ニアル完全ナル主権ナル文字ニ非常ニ重キヲ置キ行政処分ノ承認ノ如キハ之ヲ論スル権能ナシト謂ヒ居レリ

通訳問題ニ付「アボルチン」ハ当初進ンテ日露両国語ヲ使用シ両国文ニテ書類作製ノ考ナル旨申居リタルニ拘ハラス中途豹変シテ英語使用案ヲ持出シ未タニ決定ニ至ラス又亜港南部無線使用ノ件ハ先方中々強硬ナリ調査ノ結果先方ハ出発前既ニ此ノ点ニ関シ「ハバロフスク」浦塩両無線ト充分打合セヲ遂ケ来リ居ルモノナルコト判明ス

領事館建物ノ件ニ付テハ先方ニ於テ充分便宜ヲ与フヘキヲ約言シ目下ノ所其ノ態度良好ナリ尚一行ハ当地鮮銀ニ二万二千円ノ預金ヲ有シ携帯品僅少ニシテ着換ヘモ有セス生活質素ナリ

三七九　三月二十四日　在アレクサンドロフスク臨時海軍防備隊司令ヨリ安保海軍次官、斎藤軍令部次長各宛（電報）

第二回本会議ニ於ケル議事報告ノ件

臨防機密第九十七番電　（三月二十五日接受）

本日第二回本会議開催無線及用語問題提議後細目協定議事ニ入ル

一、無線、用語

(イ)日本側ハ亜南無線電信所ヲ露国側ニ二時間半使用セシムルコトヲ提議セルニ対シ先方ハ四時間割当ヲ要求セリ右ハ中央ニ申請ノ上其指示ニ依リ決定スルコトトシ差当リ本日ヨリ露国通信員ヲ入レ二時間半割譲スルコトトセリ使用時間割ハ追テ協定ノ筈（亜北無線電信所ハ二十三日閉鎖撤去ニ着手ス）

(ロ)露国側ハ浦潮ヨリ日本語通訳ヲ招致スルコトトナシ居レルモ四月十日頃来着ノ予定ニ付夫迄用語トシテ英語ヲ使用シ度旨主張シタルモ研究ノコトトシ当分現状ノ儘トス

二、日本側ハ「両国間経済的協同動作促進ノ為占領期間行政処分中ノ日本人ニ関スル事項ニシテ効力期限尚存続スルモノハ其効力ヲ継続セシムルコト」ヲ提議セルニ対シ彼ハ労農露国ノ主権ヲ冒スモノナリトノ理由ヲ以テ削除ヲ主張シタルカ我ハ両国委員ニテ研究ノ上別ニ之ヲ記録ニ残スコトトシ同意ス

三、公有財産中両国間ノ善隣関係促進ノ為日本在留民団及企業団ニ保有セシムルモノヲ継続使用スルコト等日本側ノ提議ニ対シテハ先方削除ヲ要求セリ更ニ両国委員ニテ協定スルコトトシ保留ス

四、其他ノ行政及公有財産引渡ニ対シテハ大体我提案ニ同意ス

三月二十四日

三八〇　三月二十五日　在アレクサンドロフスク臨時海軍防備隊司令ヨリ安保海軍次官、斎藤軍令部次長各宛（電報）

日露分科委員会ニ於ケル先方ノ提案ニ関スル件

臨防機密第九十八番電　（三月二十六日接受）

本日午後日露分科委員会開催日本側参謀長及参謀一名露国委員「シシリアンニコフ」「プレスチン」「イクーン」列席ス

露国側ハ左ノ提案ヲナス

第一案、亜港ニ於ケル軍隊撤退及行政引渡ハ四月九日トス但シ占領軍司令官ハ亜港ニ於ケル全軍ヲ指揮スルコトヲ得

第二案、露国軍隊ヲ亜港ニ駐屯セシムルコト

第三案、以上ノ案成立セサル場合ハ左記ニ依ルコト

一、露国軍隊ハ四月十日迄ニ当地来着ノ予定ニ付之ニ要スル兵営ヲ提供サレ度

二、露国軍隊カ受クル待遇ハ日本軍ト同等タルヘシ

三、日本カ軍制施行地帯中ニ於テ日本カ定メタル相談役ニ露国委員ノ指定セル地方委員三名ヲ加フルコト

四、行政引渡ニハ以上委員ヲ参加セシムルコト

五、亜港ニアル旧露国印刷所ヲ引渡スコト

六、寺院病院学校等ノ施設ハ露国委員ノ派遣ヲ許可スルコト

七、未タ日本軍ノ占領中ナル地方ニ於テ露国代表ノ任務遂行ヲ確実ナラシムルコトニ日本ハ保証ヲ与フルコト

八、上記各地方ニ於ケル露国代表ト亜港委員トノ連絡確実ヲ欠ク（不明）……コト

右ノ提案ニ対シ日本側ハ徹頭徹尾宿営力ノ不足ヲ理由トシテ之ヲ拒絶シタルモ明日会議再開ノ筈

三月二十五日

三八一　三月二十八日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

無線連絡問題ニ関シアボルチント会見ノ件

第三七号

貴電第一二号ニ関シ

軍司令官トモ打合ノ上三月二十七日本官「アボルチン」「カツワ」ト会見ノ際御来示ノ趣旨ニ依リ先方ノ同意ヲ取付ケント試ミタルモ先方ハ本問題ハ今当地ニ於テセストモ何時何処ニ於テモ交渉シ得ル性質ノ問題ナリトテ明答ヲ避ケ実ハ自分等ニハ斯ル交渉ヲナスノ権能ナシ或ハ東京ニ於テ「コップ」大使トノ間ニ交渉サレテハ如何ト語リ居タルカ本官ハ追加的ニ右交渉ノ権限ヲ受ケンコトヲ求メ置ケリ

三八二　三月二十八日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

総領事館用建物ニ関シ先方側ニ諒解要請ノ件

第四一号

当地総領事館用建物ニ関シ二十七日本官「アボルチン」「カツワ」ト会談ノ際予テ我方第一案トシタル現軍司令官宿舎参謀長宿舎外交官兼電信隊長宿舎軍政署用建物ノ四軒

ノ存在スル一区画（総領事官舎事務所副領事及書記生四人ノ宿舎ニ当ツル予定）ヲ得タキ考ヘナリト種々詳細理由ヲ説明シタルニ両人共総領事館ニ対シテハ充分便宜ヲ供与スヘシトテ右本官ノ提議ニ対シ確答ヲ避ケタルモ何等異議ヲ唱ヘサリキ就テハ近ク図面其他ヲ提出シテ公式ニ交渉スル積リナリ「オハ」分館ノ為ニハ不取敢深沢中佐ニ於テ三月十一日「オハ」引渡ノ際第六号（守備隊ノ使用セシモノ）家屋ヲ保有シタルカ「オハ」守備隊長帰来シテ語ル所ニ依レハ右我分館トシテハ使用ニ堪ヘサルヘクドノ途新築ノ必要アラントノコトナリ

三八三　三月三十日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

撤兵後ノ鮮銀出張所存置問題ニツキ意見具申ノ件

第四四号　（三月三十一日接受）

貴電第九号（四）鮮銀出張所存置問題ニ関シ軍司令官ハ撤兵後ノコトニ関シテハ同官ヨリ陸軍省ヘ意見ヲ具申スル立場ニアラス右ハ寧ロ本官ノ為スヘキ所ナリトノ意見ナリ御参考迄

三八四　三月三十日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

第三回本会議ニ於ケル議事報告ノ件

外一二七、一二八　（三月三十一日接受）

本日午後一時半ヨリ第三回本会議ヲ開キ三月二十四日本会議以降ノ分科会ニ於テ意見未タ一致セサル事項ニ就キ我方ノ意見ヲ述ヘ

一、亜港ニ軍隊ヲ過早ニ入レ難キコト

二、行政処分ノ効力延長ハ先方ノ主権ヲ侵害スルニ非サル故速ニ予備研究ニ移ルコト

三、先方カ北京議定書中旧露国ナル文字ヲ厭フノ不可ナルヲ示シ

四、引渡当時ノ状態トハ決シテ我方ニ於テ完全ナル状態ニ於テ引渡ス義務無ク故意ニ破壊スルカ如キ意味ニ非サルコトヲ暗ニ仄カシ

五、先方カ通信機関ノ安全引渡シヲ主張セルニ対シ我ハ之ヲ逆ニ利用シテ将来ノ国際通信ニ関スル研究ノ端緒ヲ開クノ必要ヲ主張シ

六、其他「アボルチン」カ地方問題ヲ根本的ニ解決シ度シトノ自己ノ意図ニ対シ十分努力セラレ度シトテ提議ヲ打切リタルニ先方ハ先ツ左記意見ヲ要求シ休憩ニ入ルニ先チ行政処分ノ分科会ヲ開クハ理由不明ナリ殊ニ其名称不可解ニシテ各々別個ノ問題ナリト主張シ我説明ニ依リ一応了解シ通信機関ノ利用ニ就テモ分科会ハ如何ナルコトヲナスヤ不明ナリシモ後我方ヨリ軍撤去後ノ通信ハ両国親善ノ経済ノ為必要ナリトノ説明ニ依リ了解シ「ア」ハ決シテ地方的問題ヲ根本的ニ解決スルノ考ヘニハ両代表間ニ何等意見ノ相違ナシト答ヘ一同会議場前ニ於テ記念ノ写真撮影ヲナス先方ハ兎ニ角我カ提議ヲ容レテ行政処分ニ関スル分科会ノ開催ニ同意ス但シ委員ハ日本側ヨリ討議事項ノ内容ヲ通知セラレタル上ニスヘシト答ヘ若シ応シ難キモノアラハ政府ニ請訓スヘシト述ヘ旧露国政府ノ名称ハ条約成立後ニハ無キ筈ナレハ削ラレ度

完全ナル状態ニ於テ引キ渡シヲ受ケ度シトノ条件ハ司令官ノ声明ニ満足シテ撤回スヘシト述ヘ通信機関ノ将来ニ就テハ一応問題ノ内容ヲ承知シ度シト請求シ

尚我方ヨリモ海軍委員会ノ開催ヲ請求シ尚砲艦「ブイ」等ヲ実地ニ検分シ度シト述ヘ最後亜港ニ軍隊ヲ入ルルコトノ為司令官カ佐藤大佐ニ与ヘタル訓令ヲ知リ度ト答ヘ司令官ハ之ニ対シ完全ナル状態ニテ引継クコトニハ避ク可ラサル障碍ハ致方ナシト予防線ヲ張リ通信問題ハ追テ内容ヲ示スコトトシ引続キ行政処分規則海軍各分科委員ヲ任命シ艦船「ブイ」等ノ実地検分ノ時期ヲ律シ尚「アボルチン」ハ決シテ我方ヨリ難問題ヲ提出シテ逐次譲歩スルニ非スト釈明セリ

其結果外一二六ヲ多少修正シタルモノヲ明日正午迄ニ交付スルコトトシタルカ先方ハ或ハ浦潮ヨリ来ル可キ軍隊カ携行糧秣等ノ輸送時恰モ道路ノ泥濘時期トナル可シト愚痴ヲ述ヘ最後ニ「カツワ」モ加ハリ財産引渡ノ分科会ヲ開カレ度トテ我態度ニ稍々不満ノ意ヲ仄カシタルモ軍隊撤去行動ノ都合モ述ヘ成ル可ク当方ノ提議ニ随ハシムルコトトセリ之ヲ要スルニ本日ノ会議ハ大ニ彼我意見ノ近接ヲ見タル次第ナリ

三八五　三月三十一日　幣原外務大臣ヨリ在アレクサンドロフスク島田領事宛（電報）

銀行券ノ処置ニ関スル件

第一四号
貴電第四四号ニ関シ
鮮銀出張所ノ存否ハ無論将来ニ関係スル事項ナルモ問題ノ主眼ハ占領中北樺太ニ流通スル銀行券ノ処置ニ関連スルモノナルニヨリ軍ニ於テ処理スルヲ適当トシ陸軍省ニモ右ノ旨ヲ説明シ同省ニ於テ適宜司令官ニ指令スルコトニ打合済ナルニヨリ右ニ承知セラレタシ

三八六　四月一日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

当地民会設立ニ関スル件

第四六号　（四月二日接受）
貴電第一三号ニ関シ
残留スヘキ邦人ノ数ハ到底見込立タス民会ノ設立ニ就キ資本側ハ之ニ関与スルヲ避ケ居リ現ニ奔走中ノモノハ撤兵及露国政権確立ノ過渡期ニ於テ生活ノ不安ヲ感シ民会設置ヲ名トシテ生活ノ手段ヲ得ントスル連中ニテ信用ニ乏シ本官ハ軍側ト協力シテ民会ノ設立ニ尽力中ナルモ目下ノ事態ニテハ急ニ出来相ニモナシ残留者ノ顔触レ大体判明スルニ至レハ父兄又ハ有志ノ組織スル学校組合ヲ組織シ之レニ学校ヲ託スルカ若ハ民会設立セハ之ニ託シ得ヘシト存ス維持経営ニ関シテハ本省ニ於テ自ラ教員生徒ノ数等ノ割合ニ応シ補助金ヲ支出サルル儀ナルヘキモ愈々ノ場合最高額三千八百円迄支出可能ナルニ於テハ維持経営可能ナリト思考セラル四月一日「アボルチン」ハ本官ニ対シ露国側ニテハ学校経営ヲ目的トスル組合ヲ許スヘシ又当地小学校ハ形式上一旦露国側ニ引渡シヲ受ケタル上改メテ日本小学校トシテ日本民会又ハ父兄会ニ之カ使用ヲ許スヘシ表面ハ小学校長カ地方官憲ノ監督ヲ受ケ同校長カ民会又ハ父兄会トモ相談ノ上学校ヲ維持スル次第ナリ尚又民会ニ就テハ表面八ケ間敷規則ハアルモ当地実情ニ鑑ミ日本人会ノ非公式存在ハ当分之レヲ黙認スヘキニ付万事余リ心配スル必要ナシト語レリ

三八七　四月二日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

無線連絡問題ニ対スルソヴィエト側ノ態度報告ノ件

第四八号　（四月三日接受）
往電第三八号ニ関シ
四月二日「アボルチン」ハ本官ニ対シ「ヲハ」「チャイヲ」無線ニ関シテハ日本人ハ露国々内法ニ依リ打電セハ可ナル次第ニシテ日本側提案ノ趣旨ハ諒解ニ苦シムト云ヘルニ依リ本官ハ北京ニ於ケル話合ヨリ初メ本件無線ノ性質油田トノ関係等詳細説明シタル処「ア」ハ大イニ諒解シタル面持ヲ為シ併シナカラ日本技手カ勝手ニ来リテ打電スル様ニテハ不都合ナリ技手ハ労農官憲ノ支配下ニナカルヘカラストテ日本人技手ヲ露国官吏トシテ任用方ノ件ニ触レタルヲ以テ本官ハ右「ア」ノ言分ハ日本人技手ヲ露国官吏ニ任用シタシトノ意味ナリヤト質問セシニ「ア」ハ日本側ハ之ニ同意ナル次第ナリヤト反問セルヲ以テ本官ハ我方ハ之ニ不同意ナリ然レトモ貴方ニ於テ是非トモ左様シタシトノコトナレハ一応政府ニ稟請スルノ外無シト答ヘタルニ「ア」ハ要スルニ日本側ノ案ニ拠レハ本件無線ハ単ニ形式上露国ノモノナリト云フニ止リ実質ハ日本ノ無線ナリトテ頻リニ不平ヲ洩シ結局不得要領ニテ終リタルカ会談中「ア」ハ本件無線ハ撤兵完了迄ニハ解決シ得ルカ如キ口吻アリタリ

三八八　四月二日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

公有財産引継分科委員会ニ於ケルソヴィエト代表ノ申出ニ関スル件

外一三九　（四月三日接受）
二日午後一時ヨリ北緯五十一度十分以北ニアル公有財産引継ノ分科会ヲ開キ其ノ手段トシテ「カツワ」ハ東部ト西部トニハ土地公有財産ハ民警ノ受ケ得ルモノノ外ハ更ニ民警ヲシテ受取ノ手続ヲナサシメ其模様ニ依リ亜港ニテ審査ノ後正式ノ受授ヲ了シタルコトトシ西海岸ハ日本軍ノ任命セル村長ニ引渡セルニテ我方トシテ責ニ任シ難ク別ニ本日委員付ノ者ヲ派遣セルモ五月十五日迄ニ其ノ証ヲ当地ニテ受領シ得サルヘシ故ニ書類ニ依リ亜港ニテ受授ヲ行フモ後日引継委員異動アリシコトヲ知ラハ日本ニ通知スルコトノ条件ヲ付スルコトトシタシト述ヘ我方之ニ同意シ引継財産ノ目録ヲ閲覧セシメ先方ハ之ヲ調査スルコトトナレリ

三八九　四月四日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

行政権引渡ノ共同文書公表ニ関スル彼我ノ態度等報告ノ件

外一四五
細目協定ニ使用スヘキ文字ニ就キ両国ノ意見未タ一致セサ

ルコトハ三月二十四日ノ外一〇九ノ通リナレハ明四日ノ行政権引渡ノ共同文書モ此ノ関係カラ実施困難ナリトノ予想ヲ以テ日本側ヨリ日本文ヲ正文トシ露文ノ訳文ヲ付シタル通告文ヲ先方ニ送付スル形式トシテ非公式ニ昨二日島田ヲシテ先方ノ意向ヲ確メシメタルニ該通告文中ニ行政権ノ引渡ヲナスモ尚右ノ地方ニハ協定未解決ノ問題アル故誤解ヲ避クル為此ノ種ノ未解決問題ハ猶引続キ協定ヲ進ムヘキモノナリトノ意味ヲ付ケ加ヘアルニ対シ先方ハ意味広汎ニ過キ直ニ承諾シ難シト保留シタル処本三日之ニ対シ左ノ意味ニ改メ協同公表シ度キ旨申シ来リ右ハ日本政府ノ原案タル彼我同一ノ立場ニアリテ協定スヘキ精神ヲ没却シ我ヲシテ彼ニ屈従セシムルカ如キ立場ニ置クノ懼アルニ就キ明四日午前中ニ更ニ交渉シテ成ル可ク抽象的ノ文字トスルカ斯ノ如キ条約ニ根拠アル事項ハ寧ロ之ヲ除クモ差支ヘナク又「タムレオ」方面漁場ノ如キモ既ニ先方ヨリ引続キ審議スルノ公文ヲ受領シアリ未解決ノモノハ纔ニ有線無線位ノミナレハ付帯条件ヲ削リテ共同公表スル様決定スルヤモ知レス

外一四六

外一四五中先方ノ付帯条件

尚双方ハ三エス・エル地区北薩哈嗹引継条件全権委員ニ引渡シ「チャイオ」ト「オハ」ノ無線電信所問題ハ芳沢「カラハン」両氏間交換公文第四項ニ決定シタル如キ三エス・エルノ法令ニ基ク一切ノ適当ナル免除ト可能ナルヘキ措置ヲ日本利権獲得者ト其事務上ノ連絡ノ為使用シ得ルコトトシ三エス・エル現存ノ法令ニ準拠シテ解決セラルヘキモノナルコトヲ茲ニ協定セリ

三九〇　四月五日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

無線連絡問題、石炭ノ島外輸出問題等ニ関シ報告ノ件

第五〇号

四月三日「アボルチン」「シシリヤンニコフ」ハ漁業問題ハ一週間位ニテ決定スヘシト云ヒ石炭ノ島外輸出ニ関シ大体我方ノ希望ヲ支持シテ莫斯科ニ請訓シタル旨ヲ語リ「オハ」「チャイオ」無線ニ関シテハ相当我方ノ希望ニ応シ得ルヤノ口吻アリ尚当日先方ヨリ本官ニ対シ北京協約ニハ「オハ」「チャイオ」無線ニ付テハ将来何等カノ協定成立スル迄ノ過渡期ニ於ケル状態ニ付何等規定ナキ処右ハ如何様ナリ居ル次第ナリヤト尋ネタルヲ以テ本官ハ右ハ勿論現状ノ儘引続キ作業ヲ継続スヘキヤニ諒解シ居レリト説明シ置ケリ詳細ハ近ク通信機関ニ関スル分科会ニテ討議セラルル筈

三九一　四月十五日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

利権問題交渉ニ関シソヴィエト側ヨリ北京条約ニ基キ措置シタキ旨申出ノ件

第五六号　（四月十六日接受）

石炭島外輸出ノ件其他利権関係ノ問題ニ関シ「アボルチン」「シシリヤンニコフ」ハ十五日本官ニ対シ実ハ二日前「チチェリン」ヨリ此種問題ニ関シテハ凡テ北京協約ヲ遵奉シテ措置スヘキ旨ノ回訓アリタルカ当方ヨリ重ネテ詳細ノ事情ヲ具シテ請訓セリ労農側トシテハ軍ノ威力ノ許ニ軍ト此種経済的問題ヲ協定スルヲ欲セス即チ三菱側ノ請願ニ応シテ決スルカ又ハ撤兵後日本総領事トノ間ニ平和的ニ解決シ度キ考ヘナリ北京協約ニ輸出禁止ノ明文アル限リ今日ニ於テ之ニ違背セル協定ヲ司令官トノ間ニ締結スルコトハ困難ナリト語リ本官ハ先方ノ態度ハ本件ヲ此儘引キ摺リ撤兵後ノ解決ニ委セントスルノ底意ナリト見做セリ尚先方ハ「イルキル」牧場「ヅウエ」電話ノ件モ三菱利権ノ付属事業トシテ石炭輸出問題ト共ニ三菱トノ間ニ決定シ度キ考ヘナリト付言セリ卑見ニ依レハ本件ヲ軍司令官ノ公式交渉ヨリ切放スコト適当ト思考セラルルニ付其趣旨ニテ目下司令官ニ進言中ナリ

三九二　四月十六日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

利権問題等ニ関シ島田領事トソヴィエト側トノ会談要旨報告ノ件

外二〇三

本十五日午前島田領事カ「アボルチン」「シシリヤンニコフ」ト会談ノ要旨

一、兵員ノ揚陸配置ハ単簡ナル調書ヲ交換シ将来意外ノ変更無キ様シタシ

二、四月二十七日頃浦潮ヨリ漁区競売係漁業専門家評価係ヲ小樽経由ニテ呼寄セ当地ニテ競売ヲ行ヒ度シ二十三ケ所ハ多分日本人ノ手ニ帰スルナラン但入札ノ価格ハ日本軍ニ比シ高価ニスル考ナリ日本軍ノ為セルハ日本漁業者保護ノ

為極メテ安価ナリシ故僅ニ収入二万円ニ過キス
三、其他ノ利権問題ニ就キ「チチェリン」ヨリ総テ北京協定ノ通リ処理セヨトノ回訓アリシカ右ニテハ問題解決セサル故詳細事情ヲ具シ更ニ訓令ヲ請ヘリト
四、此種ノ問題ヲ今軍司令官トノ間ニ決定スルハ好マシカラス撤去後当業者ヨリ官憲ニ請願スル形ニテ解決シタシ「アボルチン」モ当分残留スヘク日本総領事ト交渉セン尚東京ニテ「コップ」大使ニ請願スルモ可ナラント鞏固ナル決心ヲ示シ是等ニ関スル問題ハ撤去前ニ解決困難ナルカ如ク島田ノ意見ニテハ三菱カ直接交渉スルカ或ハ島田ノ非公式交渉トセハ案外都合ヨク進捗スルヤモ知レスト尚「シシリヤンニコフ」ハ石炭七万噸ノ輸出ニ果シテ如何ナル利益アリヤト笑ヒタル故島田ハ其然ラサル理由ヲ説明シ置キタル由
五、(二)ノ人員ト共ニ水産技師「ツイミ」人工孵化場ニ行クト
六、軍司令官ト相当ノ協定ヲ結ハスシテ引渡ヲ受クル如キ事トナリテハ両国将来ノ為頗ル具合悪シキ故細目協定ノ締結ニ努力スト

別電　四月十七日薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長発津野陸軍次官宛電報外二〇八
細目協定案ニ対スルソヴィエト側対案

外二〇七
四月十一日外一八一ノ細目協定案ニ対シ先方ハ昨十六日夕刻其対案ヲ送付セリ其際ニ於テ対案ヲ携行スル使カ「アボルチン」ノ代理トシテ口頭ニテ説明セル要旨概ネ外二〇八ノ如シ

(別電)
四月十七日薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長発津野陸軍次官宛電報
外二〇八
細目協定案ニ対スルソヴィエト側対案

外二〇八
一、(代表者)ヲ凡テ(中央執行委員会北薩哈嗹受領全権委員会)
二、第一条ニ日本軍隊撤去ヲ挿入シ行政権ヲ行政トシ法律ト国際法上行政権ノ引渡シナルモノアリ得スト説明ス
三、第二条(ノ引渡シニ必要ナル)ヲ(ニ関スル一切ノ書類占領当初ヨリ押収シタルモノヲ含ム)
四、第三条第一項ノ公有財産ノ上ニ「三エス・エル」ヲ加

三九三　四月十七日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛(電報)

漁区競売其他ニ関スル島田領事トアボルチントノ会談要旨報告ノ件

外二〇六
本日午前島田領事カ命ニ依リ「アボルチン」ヲ訪問シタル会談ノ要旨
一、日本軍ト漁業者トニ異議ナケレハ浦潮ニテ漁区二三個所ノ競売ヲ為スヲ得ハ労農側ニモ極メテ好都合ナリト云ヒ
二、三菱カ将来日本政府ノ紹介スル利権業者トナルヤ未確定ナルハ石炭ノ島外輸出問題ノ解決ニ不便ナルモ何トカシテ解決シ得ルナラント述ヘ
三、押収砲艦視察問題モ何トカ円満ニ解決スルヲ信スルモ目下ノ状態ニテ水ニ卸スコト不可能ニシテ使用ニ堪ヘサルコトヲ憂慮スト

三九四　四月十七日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛(電報)

細目協定案ニ対スルソヴィエト側対案報告ノ件

ヘ二月二十日日本ハ連邦ヲ認メタル故ニシテ一九一七年ニ遡ル意味ニ非スト説明ス日本案ノ第二項ヲ二分シ日本公有財産ヲ第二項トシ(第一条ニ依リ行政権カ引渡サルルトキニ北薩哈嗹ニ於ケル日本占領軍ニ属スル)ヲ「軍カ獲得(其原語プリオブレチェニエ)シ徴収(其原語イズヤーチエ)又ハ建造シタル一切ノ公有財産ニシテ北薩哈嗹ニ残置スル」トシ私有財産ノ事ヲ第三項トシ(一切ノ)上ニ「委員ノ管理(其原語ナイジーチ・フ・ウエデニエ)ニ付スル」ヲ加ヘ(ノ内現ニ管理者ヲ有セス又所有者判明セサル為保管シアルモノ及)ト(日本案第三項)ヲ削ル
五、日本案付則ヲ第四条トス但シ(調印ハ双方日露両国各一通ヲ保存シテ之カ証拠トス)ト(完全ニ)ヲ削ル

三九五　四月十八日　幣原外務大臣ヨリ在アレクサンドロフスク島田領事宛(電報)

細目協定案中ノ私有財産ノ種類件数等調査回電方訓令ノ件

第二〇号
北「サガレン」行政引渡及占領終了ニ関スル細目協定(第

四案）第四条第二項中ニ『北「サガレン」ニ在ル一切ノ私有財産ノ内現ニ管理者ヲ有セス或ハ所有者判明セサル為日本国占領軍ニ於テ保管シアルモノ』トアル処右私有財産ノ種類件数承知シタク又軍ニ於テ使用セルモノノ有無及軍カ他ノ私人等ヲシテ使用セシメ居ルモノアラハ此等ノ種類件数使用料ノ処分等ノ点ニ付テモ右財産ノ現情ト共ニ取調ノ上速ニ回電アリタシ

三九六　四月十八日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

細目協定締結促進ノタメ声明書ヲ交換スルコトヲ研究中ノ旨報告ノ件

別　電　四月十八日薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長発津野陸軍次官宛電報外二一一
細目協定締結促進ノタメノ声明書案

外二一〇

五月十五日迄余日尠キタメ成ル可ク急キ細目協定ヲ締結スルノ必要ヲ認メ外二〇八ノ対案カ余リ我カ方案トノ距離無キ故ニ我カ方ニ不利ナリト認ムル点ニ僅少ナル修正ヲ施セハ両法案ヲ合致セシムルヲ得ヘシト思ハルルモ其ノ付属文書トスル考ニシテ交渉中ノ数箇ノ文書ハ其ノ原形ノ儘先方ノ同意ヲ得ルコト頗ル困難ト思ハルル故ニ已ムヲ得サレハ概ネ外二一一ノ如ク先方ノ声明書ヲ求メ之ニ対シ我方ヨリ日本側ハ右ノ声明書ニ全然同意ナル旨回答ヲ送ルコトニ研究中但シ軽便鉄道ノ処分如何ニ依リテハ尚研究ヲ要スル点アルヘシ

（別　電）　四月十八日薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長発津野陸軍次官宛電報外二一一
細目協定締結促進ノタメノ声明書案

外二一一　（四月十九日接受）

北薩哈嗹行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目協定ニ本日署名スルニ当リ「三エス・エル・ツイク」北薩哈嗹受領全権委員会ハ「三エス・エル」ノ左記国トノ間就中北薩哈嗹ニ於ケル善隣的相互関係ト経済的協力ヲ鞏固ナラシムル為メ左ノ通リ声明スルノ光栄ヲ有ス

一、宗教的性質ヲ有スル財産ノ処分ニ関スル「三エス・エル」政府地方官憲ハ同国法令ト両国間諸条約ノ許容スル範囲ニ於テ日本臣民ノ利益ヲ尊重セントスル希望ヲ考慮ニ入ルルコト

二、亜港ニ於ケル日本人学校ト火葬場ノ建物ト之カ付属物ノ使用ニ関シ日本人ニ無償許与スルコト

三、在亜港日本総領事館ト「オハ」分館ニ関シテハ北京協約議定書（甲）第一条ニ従ツテ措置スルコト

四、「オハ、チャイオ」無線電信ニ関スル問題ハ北京協約ニ準拠シ根本的ニ解決セラルル迄ハ日本人之ヲ運用スルコト但シ其ノ間「三エス・エル」政府地方官憲ハ同無線電信ニ依リ公用電報ハ無料ニテ発受セラル可シ

五、亜港無線電信所ト日本国無線電信所間ノ直接通信問題ハ将来ノ外交的交渉ノ解決ニ保留スルコト

六、木材ヲ輸送スル為メ日本人カ国境・河川「ピレオ」ヲ使用スル問題及北薩哈嗹日本領土間ノ国境出入ニ関スル手続ヲ日本人ニ対シ軽減スル問題ニ関シテハ之ヲ将来ノ外交的交渉ノ解決ニ留保スルコト

七、千九百二十一年四月一日付井上閣下発全権委員会長宛書翰所載ノ希望（同日外一三一電報ノモノ）ニ関シテハ之ヲ「三エス・エル」政府機関ト日本領事関係会社及関係者間ノ適当ナル交渉ノ解決ニ留保スルコト

三九七　四月十九日～二十日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

アボルチン招待ノ晩餐会ニ関シ報告ノ件

外二一二

昨夕「アボルチン」ハ司令官以下我カ幹部ノ主ナル者ヲ公式ニ晩餐ニ招待シタルカ席上ノ挨拶ハ大体細目協定カ既ニ双方ノ意見合致ニ近付タルト付随問題ノ未タ意見ノ一致セサルモノモ成可ク速ニ一致スルコトニ努力シ度トノ意味ニシテ尚列席者カ異口同音ニ亜港ニ入市シタル赤軍ニ対シ我カ観察ヲ問ヒ且非常ニ厳重ナル訓示ヲ与ヘアル旨ヲ述ヘタルカ此ノ点ハ事実ニ於テ現ハレ居ルモノト観測セラレ目下彼我ノ間ニ何等ノ事故ナク良好ノ状態ニ在リ

三九八　四月二十二日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

付属文書ノ内容ニツイテノソヴィエト案ニ関スル件

外二一六

本日午前島田領事命ニ依リ「アボルチン」訪問ノ際昨日約束ノ付属文書ニ対シ督促セシニ本日午後送付スルヲ約シ其内容ヲ説明セルモノ概ネ左ノ如シ

一、木材ノ輸出ハ若干ノ税ヲ支払ヒテ許可ス（一石二十銭

位ナラハ引合フト当地方当業者ノ言）
二、三菱ノ亜港「ズーエ」間電話「イルキル」牧場ハ当分現在ノ儘之ヲ許シ追テ根本的ニ商議ス
三、漁区製漁区二十三ハ本年限リ日本人ニ継続ヲ許ス但シ借区料ハ後日公平ナル評価ニ依リ定ムルモ決シテ高率ナルコトナカルヘシ評価ニ関スル官吏未著ニ付キ差当リ決定困難ナリ
四、土地建物ノ登録査証等ニ就キテハ政府ノ訓令到着シタルモ目下決定シ難ク追テ各個ニ就キ審議ス
五、石炭輸出問題ハ三菱ト交渉スルモ軍ノ駐屯間ハ予備的交渉ヲ為スノミ不日「ポレオイ」ヲ「ズーエ」ニ派遣シ現地調査ヲナス
六、軽便鉄道ハ残サレ度シ将来「ズーエ」「ロガトイ」方面ニ移セハ有利ナリ
右詳細ハ追テ電報ス可キモ十九日外二一五ノ如ク単ニ一、二回ノ本会議ヲ開キ一瀉千里ニ諸問題ヲ解決セン

三九九　四月二十二日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

我ガ方ヨリ提出セントスル細目協定修正案送付ノ件

外二一八

我方ヨリ提出セントスル細目協定修正案

（付箋）

北薩哈嗹行政引渡及占領ノ終了ニ関スル細目協定

大正十四年一月二十日即チ千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ署名セラレタル日本国及「三エス・エル」間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ト同日付ヲ以テ署名セラレタル議定書（甲）第三条ニ基キ北薩哈嗹行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目ヲ協定センカ為日本国占領軍司令官（以下本電報中総テ甲ト略称ス）及「三エス・エル」中央執行委員会北薩哈嗹受領全権委員会（以下本電報中総テ乙ト略称ス）ハ「アレクサンドロフスク」ニ於テ会合シ左ノ条項ヲ協定ス

第一条、甲ハ左ノ区分ニ依リ行政ヲ乙ニ引渡シ日本国軍隊ヲ撤去ス可シ

(イ)北緯五十一度十分以北ノ地方（註　不明ニ付再電中）ハ四月四日正午迄

(ロ)北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以東ノ地方ハ四月十四日正午迄

（欄外註記）

(ハ)其ノ他ノ地方ハ五月十五日正午迄

前項ノ各期ニ於テ行政ヲ引渡シ日本国軍隊ノ撤去期終了シタル時ハ其都度甲及乙ハ協同シテ之ヲ公表ス可シ

第二条、甲ハ行政ノ引渡ト同時ニ日本国占領軍カ保管セル日本国占領軍ノ北薩哈嗹占領以前ニ関スル公用書類及行政ノ引渡ニ必要ナル日本国占領軍ノ調製セル書類ヲ乙ニ引渡スヘシ

第三条、甲ハ行政ノ引渡ト同時ニ又ハ之ニ先チ行政引渡当時ノ所在及状態ニ於テ「三エス・エル」ニ属ス可キ北薩哈嗹ニ在ル一切ノ公有財産ヲ乙ニ引渡ス可シ

甲ハ日本国占領軍ニ属スル一切ノ公有財産ノ内北薩哈嗹ニ残置スルモノヲ第一項ト同一ノ条件ニ依リ乙ニ引渡ス可シ

甲ハ北薩哈嗹ニ於テ現ニ管理者ヲ有セス又ハ所有者判明セサル為日本国占領軍ノ保管スル一切ノ私有財産ヲ前記公有財産ノ引渡ト同一ノ条件ニ依リ乙ニ引渡スヘシ

第四条、本協定ハ日本文及露国文ヲ以テ各二通ヲ作製シ甲及乙之ニ署名ス

本協定ノ解釈ニ当リテハ日露両国文ハ同一ノ効力ヲ有ス可シ

本協定ハ署名ノ日ヨリ実施セラル可シ但シ本協定中本協定署名ノ日ニ先チ実施スルコトニ定メタル部分的ノ協定ニシテ既ニ署名ヲ了シタルモノハ各々其特定ノ期日ヨリ実施セラルルモノトス

日本　年　月　日
露国　年　月　日

甲　署名
乙　署名

（付　箋）

貴省意見通リ軍ヘ電報セルモ行違ヒニ本修正案ヲ打電シ来レリ尚意見アラハ至急承リ度

（欄外註記）

行違ヒノ電報ヲ以テセル協定案ニヨリ交渉ヲ進ムル方可然旨不取敢陸軍ヘ回答シ置ケリ

四〇〇　四月二十八日　薩哈嗹州派遣軍佐藤参謀長ヨリ津野陸軍次官宛（電報）

第四回本会議ニ於ケル議事報告ノ件

外二三九、外二四〇　（四月二十八～二十九日接受）

本日午後一時本会議ヲ開キ我方ヨリ

一、細目協定ノ修正意見即チ行政ニ関スル日本ノ調製書類

ニハ引渡シ難キモノモアルコト

二月二十六日ヨリ北薩哈嗹ニ「三エス・エル」ノ主権ヲ認メ難キ故公有財産ノ性質ハ此意味ノモノトシ私有財産ヲ軍カ管理スルハ所有者ナキカ不明ナル場合ニ限ルヲ記録ニ残シ置クノ必要ナルヲ示シ日本軍ノ其ノ他既ニ売却シタルモノニハ及ハサルコト条約文ノ解訳上両国文ノ効力ヲ同一トスルコトヲ強ヒテ示ス程ノ必要ナキ故撤回スルコト

二、「オハ」「チャイオ」無線ノ所有権ハ意見ノ相違ナル故今是ニハ触レサルコト

三、「三エス・エル」軍隊ノ亜港入市問題協定ニハ日本軍出発時ノ見送リヲ加ヘテ同意シ

四、通信機関ノ引渡シ協定ニハ電信班ノ付属品ハ差当リノ所要器械ノミヲ残スコトヲ示シ

五、行政処分問題ニハ鰊ノ競売ハ四月三十日迄哈府ノ競売ハ五月二十日頃トシ其ノ他ノ問題ハ従来ノ主張ヲ説明シ

六、軽便鉄道ノ引渡シニハ北薩哈嗹ニ於テ将来利用スルノ希望ト地上権等ノ小問題ヲ将来一切残ササルコト

七、北部無線ハ既ニ船ニ積ミタル故引渡シ難キコトヲ述ヘ

八、砲艦ノ引渡シモ本日午前既ニ一部ヲ終リタリト述ヘタルニ対シ

「アボルチン」ノ回答ノ要旨

我領土内ニハ個人ノ無線ヲ認メサル故若シ我政府ニ所有権カ移ラサレハ運用ヲ停止セシメサル可ラス細目協定ヲ先ツ締結シ爾後徐ニ此ノ問題即チ付属文書ヲ研究シタシト述ヘ午後三時半休憩ニ入ル

休憩中島田領事司令官ノ提議ニ対シ先方ノ意向ヲ確メタルニ余リ大ナル意見ノ差異ナキヲ確メ得タルニ依リ午後五時半ヨリ再開我方ヨリ

一、「オハ」「チャイオ」所有権ヲ今茲ニ決定スルノ不可能ナルヲ以テシ

二、漁区ノ競売ノ期日ヲ限定セス本年ノ漁期ヲ失セサル如ク適当ノ時期ト改メ

三、「アグネオ」経営継続ト石炭ノ島外輸出ハ北京ノ外交文書ニ認メサル所ナルニ政府代表カ是認スルハ工合悪シトノ先方ノ主張ヲ容レ地方官憲カ直接民間当事者ノ請願ヲ容ルルニ信頼シテ之ヲ撤回シタルニ先方ハ右ニテ満足シ明二十九日午後一時ヨリ更ニ本会議ヲ開キ速ニ文書ノ決定調印ノ運ニ決シ其準備トシテ午前九時ヨリ起草委員会ヲ開クニ決セリ

四〇一　四月三十日　幣原外務大臣ヨリ在アレクサンドロフスク島田領事宛（電報）

協定事項中将来ニ関係アルモノニツキ回電方訓令ノ件

第二三号

海軍側ヨリノ報道ニ拠レハ二十八日本会議ニ於テ議題八項目ニ付彼我ノ意見略々一致シ翌二十九日調印ノ予定ナル趣ノ処当方ハ従来細目協定案及公文案二通以外ハ詳細ナル内容ヲ承知セサル次第ナルカ前記以外ノ協定事項中ニハ其ノ効力ヲ将来ニ存続シ従テ将来ノ関係ニ於テ此際当方ニ於テモ承知シ置クノ要アルカ如キ事項ナキヤ回電アリタシ

四〇二　五月一日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

協定事項中将来ニ関係アルモノニツキ回電ノ件

第六六号　（五月二日接受）

貴電第二三号ニ関シ

(一)撤兵終了行政引渡細目協定(二)軍事協定(三)軽便鉄道引渡調書(四)「オハ」「チャイオ」無線ニ関スル調書(五)気象報告交換調書(六)通信機関引渡調書(七)漁業外九項目ニ関スル先方来信(八)公共財産使用目的ノ継続ニ関スル当方往信ノ二協定三調書二文書ハ五月一日午後六時井上「アボルチン」間ニ調印ヲ（三及六ハ「イニシアル」ヲ施シ付属書完成ヲ待ツテ正式ニ調印ノ筈）シタルカ右ノ内将来ニ関係アルハ四・五・七・八等ナリ実ハ四月二十九日ヨリ大車輪ニテ議事進捗シ五月一日調印ヲ見タル有様ニテ本官始メ当方一同極メテ多忙ナリシハ詳細軍ヨリ電報セルヲ以テ控ヘ居リシ次第不悪御了承ヲ請フ委細陸軍側ヨリ伝達ノ筈ニ付右ニテ御承知アリタシ

四〇三　五月二日　在アレクサンドロフスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛

細目協定及ビ付属書送付ノ件

本普通第一九号　（五月七日接受）

大正十四年五月二日

在亜港領事　島田　滋　（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

北「サガレン」行政ノ引渡及占領ノ終止ニ
関スル細目協定及付属書送付ノ件

五月一日井上司令官「アボルチン」間ニ署名調印ヲ了シタル本件関係書類（日本文ノ分）不取敢及進達候間御査閲相成度尤モ右ハ「アボルチン」側日本語通訳手不足ノ為メ確定シタルモノニハ無之候間右様御了承相成度将又当日調印シタルハ露文ノ分ニ有之候処右ハ本日ノ郵便締切迄ニ書類ノ作製完了不致不得止次便ニテ送付ノコトニ致候間右併テ御了承相成度此段申進候　敬具

（別　紙）

大正十四年五月一日　薩哈嗹州派遣軍司令部

目　録

一、北「サガレン」行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目協定
二、軍隊ニ関スル協定
三、「アレクサンドロウスク」「デルビンスコエ」間軽便鉄道ニ関スル調書
四、通信機関引渡ニ関スル協定
五、「オハ」「チャイヴォ」ニ於ケル無線電信所ニ関スル調書
六、調書（気象報交換ニ関スルモノ）
七、付属公文（甲）（善隣的相互関係及経済的協力ニ関スルモノ）
八、付属公文（乙）（公共的財産ノ使用問題ニ関スルモノ）

北「サガレン」行政ノ引渡及
占領ノ終了ニ関スル細目協定

大正十四年一月二十日即チ千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ署名セラレタル日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル議定書(甲)

第三条ニ基キ北「サガレン」行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目ヲ協定セムカ為日本国政府代表者日本国占領軍司令官及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ハ「アレクサンドロウスク」市ニ於テ会合シ左ノ条項ヲ協定セリ

第一条　日本国占領軍司令官ハ左ノ区分ニ依リ日本国軍隊ヲ撤去シ行政ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ニ引渡スヘシ

(イ)北緯五十一度十分以北ノ地域ハ四月四日正午迄

(ロ)北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以東ノ地域ハ四月十四日正午迄

(ハ)其ノ他ノ地域ハ五月十五日正午迄

前項ノ各地域ニ於ケル日本国軍隊ノ撤去ヲ終了シ行政ヲ引渡シタルトキハ其ノ都度日本国占領軍司令官及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ハ共同シテ之ヲ公表スヘシ

第二条　日本国占領軍司令官ハ行政ノ引渡ト同時ニ日本国占領軍カ保管スル日本国占領軍ノ北「サガレン」占領以前ニ関スル公用書類及北「サガレン」占領中ノ行政ニ関スル日本国占領軍ノ調製セル書類ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ニ引渡スヘシ

第三条　日本国占領軍司令官ハ行政ノ引渡ト同時ニ又ハ之ニ先チ行政ノ引渡当時ノ所在及状態ニ於テ日本国占領軍カ占領当時及占領間収得シタル北「サガレン」ニ在ル一切ノ官有及公有財産ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ニ引渡スヘシ

日本国占領軍司令官ハ日本国占領軍カ買収又ハ建造シタル官有財産ニシテ北「サガレン」ニ残置スルモノヲ前項ト同様ノ条件ニ依リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ニ引渡スヘシ

日本国占領軍司令官ハ北「サガレン」ニ於テ現ニ管理者ヲ有セス又ハ所有者判明セス或ハ占領間日本国占領軍ニ於テ領置シタル為日本国占領軍ノ保管スル一切ノ私有財産ヲ前項官有財産同様「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ニ引渡スヘシ

第四条　本協定ハ署名ノ日ヨリ完全ニ実施セラルヘシ但シ本協定ニ本協定署名ノ日ニ先チ実施スルコトニ定メタル部分的ノ協定ニシテ既ニ署名ヲ了シタルモノハ各々其ノ特ニ定メタル日時ヨリ完全ニ実施セラルルモノトス

本協定ハ日本文及露文ヲ以テ各二通ヲ作成シ日本国占領軍司令官及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会之ニ署名調印セリ

大正十四年五月一日

千九百二十五年五月一日

日本国政府代表者日本国占領軍司令官井上一次(印)

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会

北「サガレン」受領全権委員会

軍隊ニ関スル協定

日本国占領軍ハ本年五月十五日迄ニ北「サガレン」ヨリ撤去シ又四月四日及四月十四日署名ノ調書ニ基キ北部及東部地域ニ四月四日及四月十四日ヨリ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ権力ヲ復興セシムル為並之ニ伴ヒ北「サガレン」ニ於テ正当ナル秩序ヲ保持スル為ノ手段ヲ講スルノ必要アルヲ以テ左ノ通協定セリ

一、「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ軍隊ハ四月十五日「アレクサンドロウスク」市ニ入市ス

二、一部隊及糧秣廠ヲ「アレクサンドロウスク」市ニ配置ス

三、其ノ残リノ部隊ハ「アレクサンドロウスク」市外付近ノ各部落ト四月四日及四月十四日付調書ニ示シタル諸地域トニ宿営ス

四、日本国占領軍司令部ハ右ノ軍隊及貨物ノ揚陸ノ為「アレクサンドロウスク」河口及軍用桟橋ノ一部ノ使用ヲ特ニ定ムル計画書ニ規定シアル期間ニ限リ提供ス

五、日本国占領軍司令部ハ赤軍本部ト軍隊トノ技術上ノ連絡ヲ設定スル為諸般ノ便宜ヲ与フ

六、「ソヴィエト」社会主義共和国連邦軍隊先頭部隊ノ「アレクサンドロウスク」入市及日本国軍隊最終部隊ノ「アレクサンドロウスク」出発ニ当リ両国軍隊ノ敬礼ノ交換ヲ行フ

大正十四年五月一日

千九百二十五年五月一日「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

日本国政府代表者日本国占領軍司令官井上一次(印)

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会

北「サガレン」受領全権委員会

「アレクサンドロウスク」「デルビンスコエ」間

軽便鉄道ニ関スル調書

一、日本国占領軍司令官ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ニ左ノ財産ヲ無償ニテ引渡スヘシ

(イ)「アレクサンドロウスク」埠頭ヨリ「デルビンスコエ」間軽便鉄道線路

(ロ)右ニ付随セル有線電信電話線

(ハ)右ニ付随セル予備軌匡

(ニ)「アレクサンドロウスク」桟橋上単線軌道(台車二十八ヲ付ス)

右財産ノ引渡ハ本調書ニ添付セル目録ニ依リ実施シ其現状ハ実地ニ検定セス

二、全権委員会ハ本問題ノ主義的方面ハ千九百二十五年一月二十日付北京条約ニ依リ解決セラレタルモノト思惟シ本財産引渡ニ関連スル日本軍ノ希望ハ之ヲ参考ニ供スヘシ

三、日本軍ニ対スル農民ノ本鉄道敷地使用料請求ニシテ未解決ノ問題ハ全権委員会ニ於テ之ヲ調整スヘシ

千九百二十五年五月一日「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

日本国政府代表者日本国占領軍司令官井上一次(印)

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会

北「サガレン」受領全権委員会

通信機関ノ引渡ニ関スル協定

第一条　日本国占領軍司令官ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ヲシテ管理シ所有セシムル為左記ノ財産ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦北「サガレン」受領全権委員会ニ引渡スヘシ

一、有線電信線及電話線其ノ設備及装置共

「ポゴビー」—「アレクサンドロウスク」間

「ヌイヴオ」—「デルビンスコエ」間

「デルビンスコエ」—「アレクサンドロウスク」間(軽便鉄道付属ノ電線ヲ除ク)

「デルビンスコエ」—国境(「オノール」南方)間

「ルイコフ」及「アレクサンドロウスク」ニ在ル軍用電話線説明図第一第二号ニ依ル

二、無線電信所

「アレクサンドロウスク」南部ニ在リ五「キロワット」ノ無線電信所トス

三、引渡サルヘキ財産ノ性質及数量

第一項及第二項所載ノ官有財産ハ本協定ニ添付シアル目録ヲ以テ示シ之ヲ左ノ二種類ニ分類ス

(イ)、占領当時迄存在セル財産

(ロ)、日本国占領軍ノ建造シタル財産

備考　電信線及電話線ノ引渡ニ方リ其ノ状態ヲ実地ニ検定セス

第二条　引渡ノ時期左ノ如シ

(イ)、四月四日及四月十四日付調書所載ノ地域ニ存在スル前条第一項所載ノ財産ハ該地域ノ行政引渡ニ関スル調書ニ署名スルト共ニ引渡サレタルモノト看做ス

(ロ)、其ノ他ノ地域ニ存在スル前条第一第二項所載ノ財産ハ五月十五日正午迄ニ引渡サルルモノトス

第三条　「ソヴィエト」社会主義共和国連邦北「サガレン」受領全権委員会ハ北「サガレン」ニ於ケル日本国領事館開設ノ場合ニハ之カ為並日本企業団及私人ノ為連絡ノ必要ナルヲ思ヒ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦法規所定ノ原則ニ基キ之等ニ対シ前記通信機関ノ使用権ヲ付与ス本項ハ別ニ有線及無線電信ニ関スル一般若ハ暫定協定締結迄有効ナルヘシ

全権委員会ト既ニ引渡ヲ了セル地域（四月四日及四月十四日付調書所載ノ）トノ連絡ヲ保障スル為日本国占領軍司令部ハ「アレクサンドロウスク」市ニ於テ必要ナル家屋ヲ供給シ電信装置ヲ引渡シ之ヲ本協定第一条第(ニ)項所載ノ諸線ニ設置スルコトニ対シ便宜ヲ与フヘシ

全権委員会ハ日本国軍隊ノ撤去ヲ援助スル目的ヲ以テ五月十五日迄日本国占領軍司令部ニ対シ日本国領樺太トノ連絡ノ為「ルイコフスコエ」ヲ経由スル有線電信線ニ依ル「アレクサンドロウスク」豊原間ノ直接通信ヲ認容スヘシ

大正十四年五月一日

千九百二十五年五月一日

「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

日本国政府代表者日本国占領軍司令官井上一次(印)

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会

「オハ」及「チャイヴォ」ニ於ケル無線電信所ニ関スル調書

「オハ」及「チャイヴォ」無線電信所ハ千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ芳沢「カラハン」両氏ノ間ニ交換セラレタル公文第四項ニ基キ解決セラルヘキモノトス此等無線電信所ハ本問題カ同公文ニ基キ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニテ調整セラルル迄ノ間ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ官憲代表者ノ監督ノ下ニ従来ノ通リ運用ヲ継続スルモノトス

大正十四年五月一日

千九百二十五年五月一日

「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

日本国政府代表者日本国占領軍司令官

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会

調　書

日本国政府代表者日本国占領軍司令官及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ハ学術上ノ連絡ヲ保チ且航海ニ資セムトスル目的ヲ以テ北「サガレン」ノ観測所ト之ニ近キ日本国ノ観測所トノ間ニ気象報ヲ交換スル問題ヲ速ニ解決スヘキ一切ノ手段ヲ講セムトスル相互ノ希望ヲ表明ス

大正十四年五月一日

千九百二十五年五月一日

「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

日本国政府代表者日本国占領軍司令官井上一次(印)

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会

付属公文（来翰受領ノ上追テ正確ナル翻訳ヲ為スヘシ）

以書翰啓上致候陳者北「サガレン」行政ノ引渡及占領ノ終了ニ関スル細目協定ニ本日署名スルニ方リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦及日本国間就中北「サガレン」ニ於ケル善隣的相互関係及経済的協力ヲ鞏固ナラシメムカ為日本軍ヨリ要望トシテ提起セラレタル諸問題ニ関シ左ノ通声明スルノ光栄ヲ有シ候

一、北「サガレン」ニ於テ日本林業者ノ伐採シタル木材七百「クーブ」ノ輸出ハ林業者カ正規ノ請願ヲナシ且切株

税及手数料ヲ支払フ条件ノ下ニ許可セラルヘシ

二、「イルキール」牧場ニ付テハ全権委員会ハ三菱合資会社ニ於テ正規ノ請願ヲ為シ一箇年間ニ対スル租借契約ヲ締結スルノ条件ノ下ニ三菱合資会社カ前記牧場ヲ使用スルコトノ希望ニ添フヘシ

三、日本国占領軍ニ於テ日本人ニ対シ住宅倉庫ノ建築其ノ他物置等ヲ設クル為貸下ケタル土地ノ使用ニ関シテ全権委員会ハ本問題攻究ノ為ニハ各個ノ場合ニ付詳細ナル書類ヲ必要トスヘク該書類ヲ調査シタル後各個ノ問題ノ本質ニ関シ意見ヲ決定スルヲ得ヘシト思考ス

全権委員会ハ必要ノ場合ニ於テ各種問題攻究ノ為日本国ノ公証簿ヲ利用セラレタキ日本国占領軍ノ希望ヲ承引ス

四、「アレクサンドロウスク」市「ドウエ」「ロガトウイ」間ノ電話ハ之ヲ炭礦企業ノ必要ヲ充ス為一時使用セシメタシトスル日本軍ノ要望ニ応スヘク使用方法及条件ハ追テ直接三菱合資会社トノ間ニ定メラルヘシ

五、「アレクサンドロウスク」市ニ於ケル電燈会社ノ問題ハ直接所有者トノ間ニ解決セラルヘシ

六、全権委員会ハ付表ニ記載セラレタル二十三ケ所ノ漁区

及製魚区ノ内「アレクサンドロウスク」市以南西海岸ニ於ケル鰊及鱒ノ五漁区ニ付テハ鰊ノ漁期切迫シタルニ顧ミ例外トシテ「アレクサンドロウスク」市ニ於テ貸下競売ヲ行フヘシ

其ノ以外ノモノ及右ノ鰊鱒五漁区競落セサル場合ハ之ヲ加ヘタルモノニ付テハ全権委員会ハ成規ノ手続ニ依リ速ニ「ハバロフスク」ニ於テ貸下競売ヲ行フコトニ対シ助力スヘシ

七、日本軍ニ於テ貸下ケムト予定シアリタル右以外漁区製漁区ニ関シテハ全権委員会ハ右ノ内「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ於テ貸下ニ付スヘキモノト認メタルモノニ付正規ノ手続ニ依リ「ハバロフスク」市ニ於テ之カ貸下競売ヲ行フヘキコトヲ茲ニ通告ス

八、日本領樺太ヨリ木材流送ノ為「ピリウオ」河並其沿岸ノ土地ヲ使用スル件ニ付テハ全権委員会ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府日本国政府間ノ審議及決定ニ俟ツヘキ問題ナリト思惟ス

右ト同時ニ北緯五十度国境ノ出入ニ関シテ与ヘラルヘキ免除ハ「ピリウオ」河木材流送ニ関スル両国政府間ノ特別協定ニ依リ規定セラルヘシ

九、北緯五十度国境付近ニ於ケル土民ニ関スル問題ニ付テハ全権委員会ハ鞏固ナル政権並国境警備ノ確立ト共ニ自己ノ国籍ヲ確定シ居ラサル者ノ国籍問題ハ自然ニ解決セラルヘキモノナリト思惟ス

十、北「サガレン」在住日本人カ当該「ソヴィエト」社会主義共和国連邦官憲ノ許可ヲ経テ日本人会ヲ設立スル場合ニ於テ該日本人会ニ対シ今回ノ引渡官有財産ニ付或種ノ権利ヲ付与スヘシトノ日本軍ノ要望ニ関シテハ同会設立ノ認可ヲ申請スルニ当リ同会ニ於テ不動産使用上必要トスル権利ニ付規定ヲ設ケ得ヘキ儀ナルコトハ自明ノ理ナリト謂フヘシ

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　　敬具

千九百二十五年五月一日

「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会長ウェ・アボルチン

日本国政府代表者日本国占領軍司令官　井上一次閣下

（付属公文）

以書翰啓上致候陳者日本側ヨリ提起シタル公共的財産使用問題ニ関連シ本官ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府カ其ノ現行法令ニ基キ民族ノ如何ヲ問ハス常ニ住民ノ福祉増進ヲ念トシ居ル旨ノ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会代表者ノ声明ヲ満足ヲ以テ確認シ此旨北「サガレン」在留日本人ニ公示スルヲ欣幸トス

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　　敬具

千九百二十五年五月一日

「アレクサンドロウスク」市ニ於テ

井上一次

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦中央執行委員会北「サガレン」受領全権委員会長「ウェ・アボルチン」閣下

四〇四　五月十六日　薩哈嗹州派遣軍井上司令官ヨリ宇垣陸軍大臣宛（電報）

北樺太占領解除ノ布告報告ノ件

付　記　五月十八日付参謀総長通報参一発第一八一号北樺太ノ占領解除及ビ撤兵ノ完了ニ関シ通報ノ

件

薩参三二九

十四日午前十時亜港ニ於テ行政引渡ノ調書ニ署名スルト同時ニ左ノ通リ布告セリ

軍ハ大正十四年五月十五日迄ニ北樺太ノ北緯五十一度十分以南東経百四十二度三十分以西ノ地方ヨリ其配兵ヲ撤去シ該地方ノ行政権ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ当該官憲ニ引渡シ其占領ヲ解除シ茲ニ本年一月二十日ノ日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約関係議定書（甲）第三条ニ基ク日本軍隊ノ撤退ヲ完全ニ終了セリ本職ハ此機会ニ於テ更ニ北樺太ノ将来ヲ祝福シ且両国間ニ於ケル善隣的相互関係及経済的協力ノ益々鞏固ナランコトヲ切望シテ訣別セントスルモノナリ

発送先　内閣、外務、海軍及省内

（付　記）

五月十八日付参謀総長通報参一発第一八一号

北樺太ノ占領解除及ビ撤兵ノ完了ニ関シ通報ノ件

参一発第一八一号　（五月二十日接受）

大正十四年五月十八日

六四四

参謀総長　河合　操

殿

通報

薩哈嗹州派遣軍司令官ハ五月十四日迄ニ薩哈嗹州ノ占領解除及陸軍部隊ノ露領撤去ヲ完了シ十六日其隷下部隊及運輸部出張所全員ト共ニ無事内地ニ帰還セリ

四〇五　五月二十九日　在アレクサンドロフスク島田総領事代理ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北樺太革命委員会ノ職務執行ニ関スル件

第七三号

北樺太受領全権委員会ハ五月十五日以降其全権ヲ北樺太革命委員会ニ引渡スヘキ旨革命委員会ハ同日ヲ以テ職務執行ヲ開始スヘキ旨亜港海関ハ十六日ヨリ事務ヲ開始シ北樺太占領中輸入サレタル外国商品ニ対シ消費税関税ヲ徴収スルコトナク封緘ヲ施シ及登録ヲ行フヘキ旨十五日正午ヨリ電報ヲ受付クヘク書留普通郵便物小包ノ取扱ヒ郵便為替ノ事務ハ十六日ヨリ開始スヘキ旨十六日以降北樺太ニ於テ「ソヴィエット」通貨ヲ流通セシムヘキ旨夫々公布セラル

事項一三　日ソ外交関係ノ開始

1　大使交換関係

四〇六　一月三十日　出淵外務次官ヨリ在東京旧露国大使館引渡問題等ニツキ出淵次官ト旧露国大使館アブリコーソフ書記官トノ会談ニ関スル件

付　記一　一月二十三日付在本邦旧露国大使館アブリコーソフ書記官ヘノ通告案

二　アブリコーソフ書記官ヨリノ申入レニ対スル回答案

（極秘）

大正十四年一月三十日出淵次官在東京旧露国大使館書記官「アブリコーソフ」ノ来省ヲ求メ今回ノ日露協定成立ニ伴フ在東京旧露国大使館引渡問題等ニ関シ会談シタル際「アブリコーソフ」ハ同大使館保存書類中ニハ東支鉄道南線譲受及松花江航行権問題ニ関スル日露交換公文中大正六年十一月二十二日付本野外務大臣声明書ノ正本アリ其ノ副本ハ当時北京駐箚露国公使ニ送付シタルカ右在東京旧露国大使館ニ現ニ保管中ノ日本側声明書正本ハ来ルヘキ同大使館ノ引渡ニ当リ之ヲ労農側引継委員ニ引継クトモ又ハ其他如何様ナリトモ日本政府ノ意向通リ取扱フコトトシ差支ナキ意向ヲ漏ラシタリ然ル処本件ニ関シ当時露国側ヨリ日本政府ニ提出セル「クルペンスキー」大使署名ノ声明書正本ハ帝国外務省ニ保存セラレ居ルヲ以テ大正六年十一月二十二日日露間ニ本件ニ関スル協定成立シタルノ事実ハ其後露国側ニ於ケル本件書類取扱振ノ如何ニ依リ之ヲ動カスヲ得サル所ナルノミナラス更ニ進ンテ我方トシテハ本件協定ノ存スル事実ハ可成確然タル方法ニヨリ労農政府ニ公知セシメ此ノ事実ヲ利用シ今後露国側トノ間ニ我方ニ有利ニ事態ヲ導クコト得策ト認メラルルニ就テハ前記「アブリコーソフ」申出ニ対シテハ在東京旧露国大使館ニ保管中ノ東支鉄道南線譲受及松花江航行権問題ニ関スル大正六年十一月二十二